

# 御嶽山ビジターセンター 基本構想

令和2年（2020年）2月

長野県・木曾町・王滝村

## 御嶽山ビジターセンター基本構想について

令和2年1月30日付けで御嶽山ビジターセンター建設専門委員会 委員長 正澤隆（木曾町副町長）から御嶽山ビジターセンター基本構想（案）の提案がありました。

この基本構想（案）は御嶽山ビジターセンターに係る基本的な構想を長野県、木曾町及び王滝村が参画の上、取りまとめたものであり、長野県及び木曾町がそれぞれ山エリア（王滝村「田の原」）及び里エリア（木曾町「道の駅「三岳」」）に整備する予定の施設の基本構想となるものです。

長野県、木曾町及び王滝村ではこの基本構想を基に、各施設の整備に向けた取組を進めてまいります。

令和2年（2020年）2月

長野県

木曾町

王滝村

## 目次

1	ビジターセンター検討の経緯.....	2
2	施設基本コンセプト .....	5
3	来訪者等の想定と施設の役割.....	7
4	設置候補地.....	10
5	施設の機能.....	12
6	施設規模 .....	16
7	展示の考え方.....	18
8	設置、管理・運営方針 .....	20
	(参考1) 展示手法.....	21
	(参考2) アンケート調査結果.....	23
別添資料1	御嶽山ビジターセンター建設専門委員会設置要綱	
別添資料2	御嶽山ビジターセンター建設専門委員会作業部会設置要綱	
別添資料3	アンケート集計結果	
別添資料4	御嶽山ビジターセンター候補地比較表	

## 1 ビジターセンター検討の経緯

---

平成 26 年（2014 年）9 月 27 日に御嶽山が噴火し、死者 58 名、行方不明者 5 名となる戦後最悪の火山災害となった。

国では、この火山災害から得た教訓を踏まえ、今後の火山防災対策の一層の推進を図ることを目的に、中央防災会議・防災対策実行会議に「火山防災対策推進ワーキンググループ（主査：藤井敏嗣 東京大学名誉教授）」が設置され、その検討結果が「御嶽山噴火を踏まえた今後の火山防災対策の推進について（報告）」として平成 27 年 3 月に取りまとめられた。また、平成 27 年 7 月には、「活動火山対策特別措置法」の一部改正が行われ、火山災害警戒地域における警戒避難体制の整備、火山専門家の育成・確保、自治体や登山者等の努力義務などが定められるとともに「活動火山対策の総合的な推進に関する基本的な指針」が策定された。

長野県では、上記報告の提言中にある「火山防災教育や火山に関する知識の普及」という観点や「活動火山対策特別措置法」の改正内容を踏まえ、火山防災を推進する方向性や具体策を検討することを目的として、平成 28 年 6 月に有識者や関係自治体職員による「長野県火山防災のあり方検討会」が設置された。検討会では、「火山防災に関する情報発信、普及・啓発」を行う方法として、主に「火山防災におけるビジターセンターでの情報発信のあり方」、「人材活用制度による火山防災の普及・啓発のあり方」について、長野県に火口を有する火山（浅間山、焼岳、乗鞍岳、御嶽山）の状況を踏まえ検討された。検討内容については、パブリックコメント募集、御嶽山（木曽地域）関係者や噴火災害被災者家族との意見交換会などを踏まえて「長野県火山防災のあり方検討会報告書（以下「あり方検討会報告書」という。）」として平成 29 年 2 月に取りまとめられた。

木曽町及び王滝村においては、あり方検討会報告書で火山防災のために有効とされたビジターセンターに類する施設がないため、新たにビジターセンターの設置について検討され、木曽町と王滝村それぞれにおいて、平成 29 年 3 月に基本計画報告書として取りまとめられた。

その後、木曽町において、平成 29 年 10 月に木曽町及び王滝村の関係有識者を中心にした「御嶽山ビジターセンター（仮称）建設等検討委員会（以下「検討委員会」という。）」が設置され、木曽町と王滝村が計画しているビジターセンターについ

て、上記基本計画報告書を基に、より一体的な建設のあり方が検討され、平成 30 年 3 月に実施計画業務報告書として取りまとめられた。

平成 30 年 7 月には、検討委員会での検討内容を基に、より具体的な内容を検討するため、有識者や地域住民等を交えた「御嶽山ビジターセンター建設専門委員会（以下「専門委員会」という。）」を木曾町において設置し、9 月に建設の参考となる施設等への視察を行い、両町村が計画している施設の指針となる基本構想の策定について、継続的な検討を行うこととした。

令和元年 7 月には、基本構想策定に係る具体的な検討を行う作業部会を設置し、基本構想に盛り込む項目の検討を中心に計 3 回開催された。また、同年 12 月に、長野県議会令和元年 11 月定例会本会議において、王滝村が設置を検討している施設について県が整備するという知事の表明があったため、作業部会での検討の結果と長野県の状況を踏まえ、基本コンセプトや設置候補地、県立施設と地元自治体が設置する施設の連携などを盛り込んだ基本構想（素案）を作成した。

令和元年 12 月及び令和 2 年 1 月には専門委員会を開催し、作業部会で作成した基本構想（素案）を基に、本構想案を取りまとめた。

【専門委員会、作業部会、調査等の実施状況】

専門委員会、調査等	概要
第1回専門委員会（視察）	開催日：平成30年9月5日（水）～6日（木） 視察先：箱根ジオミュージアム 伊豆半島ジオミュージアムパーク「ジオリア」
御嶽山火山マイスターアンケート	調査時期：令和元年7月12日（金）～26日（金）
登山者・観光客アンケート（御岳ロープウェイ）	調査時期：令和元年7月13日（土）6時～10時30分
第1回作業部会	開催日：令和元年7月31日（水）
登山者・観光客アンケート（田の原）	調査時期：令和元年8月10日（土）9時～12時
第2回作業部会	開催日：令和元年9月18日（水）
第3回作業部会	開催日：令和元年11月8日（金）
第4回作業部会（書面）	開催日：令和元年12月17日（火）
第2回専門委員会	開催日：令和元年12月18日（水）
第3回専門委員会	開催日：令和2年1月17日（金）

## 2 施設基本コンセプト

---

必要性と目的を確認し、今後の検討の柱となる基本コンセプトについて示す。

### (1) 必要性

- ・平成26年9月27日に御嶽山が噴火し、死者58名、行方不明者5名となる戦後最悪の火山災害となったが、噴火当時、御嶽山を活火山と知らない登山者が多かった。今後、御嶽山を訪れる登山者が御嶽山は活火山であることを理解し、防災知識を身に付け、安全安心な登山が行えるよう対策を講じる必要がある。
- ・火山と共生する地域として、災害の記録と記憶・教訓を、地域内だけではなく地域外含め、次世代に伝えていく必要がある。
- ・この噴火災害の影響を受け、御嶽山地域（木曽地域）の観光客が減少している傾向にあり、地域経済活性化のためにも本格的な観光復興を図る必要がある。
- ・御嶽山に関する最新かつ正確な火山情報や、信仰の山として多くの人をひきつけてきた御嶽山の歴史・文化・御岳県立公園を含む豊かな自然の魅力などを積極的に情報発信し、誰もが安心して当地域へ訪れることができるよう環境を整え、噴火災害からの復興と木曽地域全体の振興を図る必要がある。
- ・こうした課題に対する各種取組を行う拠点として、ビジターセンターの整備が必要である。

### (2) 目的

- ・噴火災害の記録と教訓（火山防災）を、木曽地域のみならず広く伝承
- ・登山者が安全に登山できるよう適時適切な登山情報を提供
- ・登山者や自然公園利用者の休憩場所かつ、避難場所の整備
- ・校外学習（修学旅行や社会見学など）での利用も目指し、御嶽山地域の文化・歴史・豊かな自然の魅力や正しい火山防災知識を学び、体験できる場所の整備
- ・御岳県立公園の魅力の発信と適正利用の促進
- ・多くの観光客等が訪れ、地域の活性化につながる観光情報の提供
- ・火山研究施設としての機能
- ・御嶽山火山マイスターや山岳ガイド、パトロール員等の活動や人材育成拠点
- ・地域の学びの場であり、地域住民と多様な来訪者との交流拠点
- ・火山と共生した地域づくりの拠点
- ・木曽町で検討している御嶽山ジオパーク構想の拠点

### (3)基本コンセプト

以上を踏まえ、次のとおり施設の基本コンセプトを設定し、当コンセプトを基に、展示などの詳細を検討することを提案する。

#### 御嶽山を知り、火山を理解し、次世代につなげる

##### ○ 御嶽山を知る

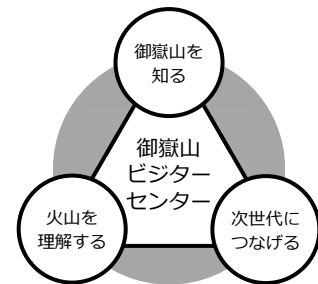
- ・ 火山のリアルタイム情報や観光情報等、御嶽山に関する情報の提供
- ・ 御嶽山が育む文化・歴史・豊かな自然の魅力を広く発信

##### ○ 火山を理解する

- ・ 火山に関する基本的な知識、過去の噴火災害などを学び、火山を理解
- ・ 火山防災に関する知識の普及・啓発、取組を推進

##### ○ 次世代につなげる

- ・ 噴火災害の記録と記憶の後世への伝承
- ・ 御嶽山を中心とした火山と共生する地域の取組  
(観光地域づくり、御嶽山火山マイスターの活動  
・ 人材育成、御嶽山ジオパーク構想など) の拠点





### 3 来訪者等の想定と施設の役割

多くの来訪者等に繰り返し訪れてもらえる施設とするため、想定される来訪者等に適切な場所での確かな情報発信等を行う必要がある。

そこで、御嶽山地域の来訪者等を目的ごとに分類し、それぞれの特徴と伝えたい情報を整理する。

#### (1) 来訪者等の整理

御嶽山地域の来訪者等を目的別に分類し、目的、訪れる場所、特徴及び伝えたい情報等を以下のとおり整理した。

来訪者等	目的	訪れる場所	特徴	伝えたい情報等
登山者 ※登拝者（信仰登山）を含む	登山	御嶽山（登山口）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・噴火時に直接影響を受ける</li> <li>・登山口に直行する機会が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登山する山が活火山であることの周知</li> <li>・噴火の危険性の理解と適切な避難行動の周知</li> <li>・御嶽山の魅力</li> </ul>
観光客 ※登山を目的としない	観光	観光地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火山が近くにあるという認識が十分とは言えない</li> <li>・登山口や登山道までは登らない場合が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活火山地域を観光していることへの理解</li> <li>・御嶽山の魅力と火山の危険性への理解</li> </ul>
地域住民	生活	地域全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・噴火の規模により被災する可能性がある</li> <li>・地元の登山口や観光地に出向くことが少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・御嶽山（火山）の正しい知識と地域資源への再認識</li> <li>・災害の記録と記憶、教訓（防災）を後世へ伝える</li> </ul>
学習者 （児童生徒等） ※校外学習を想定	学習	ビジターセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークなどにより山を感じられる場所を訪れる場合がある</li> <li>・社会見学等の場合は団体の短時間の訪問となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火山がもたらす恵みや火山の仕組み、危険性への理解</li> <li>・防災（災害）教育</li> <li>・御嶽山の成り立ちや歴史</li> <li>・御嶽山地域の自然や文化</li> </ul>

## (2) エリアの設定

御嶽山地域はエリアが広く、来訪者が地域を訪れるルートが複数あるほか、登山や観光などの目的により、訪れる場所、経路が多岐にわたっている。さらに、御嶽山を間近に望める登山口などの山に近いところは冬期閉鎖になる。

こうした地理的特徴や来訪者等の特徴を踏まえ、登山者が訪れやすく、観光客等も山を間近に望める御岳県立公園内のエリアを「山エリア」とし、通年で観光客等が立ち寄りやすい山麓を「里エリア」として位置付け、エリアごとに重点を置く発信情報を整理し、それぞれのエリアを訪れる来訪者等への効果的な情報発信を行う。

## (3) アンケート結果から見る施設の役割

令和元年7月及び8月に登山者や観光客を対象にアンケート調査を行い、御嶽山を訪れる来訪者向けの施設に必要なと思う機能を質問した結果、登山者へは火山のリアルタイム情報や登山情報などが必要であり、観光客へは御嶽山や木曽地域の観光に関する情報のほか、火山に関する情報も入手できることが必要であるとの結果となった。

## (4) 各エリアの特徴と役割

以上のことから、次のとおり各エリアにビジターセンターを設けることとし、施設の特徴と役割を整理する。なお、情報発信の充実化のためには、両エリアの施設が特徴を生かしながら連携して情報発信を行う必要がある。

### ア 山エリア施設

#### (ア) 特徴

- ・ 山に近いため、登山者中心の利用が見込まれるほか、フィールドワーク等による学習利用が見込まれる
- ・ 御岳県立公園内に立地し、御嶽山を間近に望めるという地理的条件を生かした施設の機能が必要
- ・ 設置場所により冬期閉鎖となる

#### (1) 役割

- ・ 火山のリアルタイム情報や登山道情報等の登山者向け情報発信
- ・ 御嶽山が育む文化・歴史・豊かな自然の魅力を発信
- ・ 校外学習としての利用促進と受け入れ
- ・ 御嶽山地域を中心とした観光施設や見どころへの案内
- ・ 過去の災害の記録と記憶の伝承、火山防災啓発
- ・ 御岳県立公園内の優れた風致景観（火山、火口湖、高山植物、湿原等）の案内や解説、体験の促進
- ・ 御岳県立公園の自然環境の保全と適正利用の促進

### イ 里エリア施設

#### (ア) 特徴

- ・ 立ち寄りやすい山麓にあるため、観光客中心の利用のほか、多くの学習者が訪れることが見込まれる
- ・ 設置場所により、登山者の立ち寄りや地域住民の使用が見込まれるなど、多様な利用が見込まれる
- ・ 御嶽山地域を訪れる多様な来訪者等に対応する施設の機能が必要
- ・ 通年開館

#### (1) 役割

- ・ 御嶽山地域の観光情報発信の拠点として、地域を中心とした観光施設や見どころへの案内
- ・ 御嶽山が育む文化・歴史・自然の魅力といった情報を発信し、それらを解説や体験により深く学べる学習空間
- ・ 校外学習としての利用促進と受け入れ
- ・ 火山のリアルタイム情報や登山道情報等の登山者向け情報の発信
- ・ 過去の災害等の記録と記憶の伝承、火山防災啓発
- ・ 噴火災害資料等保管用バックヤードの設置、住民等との交流拠点など

## 4 設置候補地

設置候補地については、検討委員会で「道の駅「三岳」」及び「田の原」の2箇所への設置を前提に検討を行っていたが、施設のコンセプトに照らし、当該地以外にも適切な場所がないか検討を行った。

### (1) 施設候補地の検討

検討に当たっては、山エリア、里エリアそれぞれで選定の条件を以下のとおり設定し、検討を行った。

#### ア 山エリア候補地選定条件

登山者を主なターゲットとすることから、登山者が必ず訪れる登山口の周辺にある施設または土地を選定した。

#### イ 里エリア候補地選定条件

観光客を主なターゲットとしつつ、登山客等への対応も考慮し、観光客等が訪れやすい御嶽山地域への道沿いにある道の駅、または、御嶽山地域内の観光地や施設を選定した。

### (2) 設置候補地一覧



出展：地理院タイル（路線番号や施設の場所等を追記して掲載）

### (3) アンケート結果を踏まえた適地

前述(3(3))したアンケートで、立ち寄った施設について、コンビニ、道の駅、その他の3択に絞って質問を行った。結果、道の駅へ立ち寄ったと回答した人が4割近くに上り、道の駅が有力な候補地となることが判明した。

### (4) 最終候補地の選定

交通量やアクセスのしやすさ等を考慮し、候補地を次のとおりとする。

#### ア 山エリア

- ・ 候補地

田の原（王滝村）

- ・ 理由

多くの登山者が訪れる主要な登山口であり、登山道入口の直前まで自家用車やバス等が乗り入れることのできる場所で、アクセスが容易であるため。

また、周辺に遊歩道が整備されており、御岳県立公園の魅力の周知と、適正利用の促進のために最適な場所であるため。

#### イ 里エリア

- ・ 候補地

道の駅「三岳」（木曽町）

- ・ 理由

観光客が訪れやすい場所であり、王滝口、黒沢口双方の登山口へ向かう登山者の主な通り道にある場所であるため。

また、既存の道の駅へ併設することにより、一定の誘客が見込めるほか、登山者が利用する早朝の時間帯にも対応可能な施設であるため。

#### ウ その他

御嶽山ロープウェイ山麓駅（木曽町）側の登山口を利用する登山者も多く、こちら側から上る登山者への情報提供も必要であることから、御嶽山ロープウェイ山麓駅を、里エリアのサテライトとして位置付け、既存施設を活用した情報発信が必要と考える。

## 5 施設の機能

---

### (1) アンケート結果から見る必要な機能

展示以外に、ビジターセンターに必要な設備や機能について御嶽山火山マイスターを対象にアンケート調査を行い、以下のとおり回答を得た。

- ・ 研修室（一般人を集めての安全講習等にも利用。できるだけ多人数収容。マイスターの勉強ルーム。ビデオ上映設備）
- ・ 登山者がパッキングをしたり、雨具を着たりする土足で通れる屋根のある通路
- ・ トイレと緊急避難場所
- ・ パトロール員の待機所
- ・ 図書や各種資料を閲覧できるスペース（一部抜粋）

### (2) 各エリア施設の機能

#### ア 山エリア施設

登山者を中心とした来訪者に向けた機能のほか、御岳県立公園内に整備する施設として、次のような機能が必要。

- ・ 火山のリアルタイム情報や登山道情報
- ・ 御嶽山の成り立ち、火山としての歴史
- ・ 御嶽山が育んだ文化・歴史・豊かな自然の魅力発信。解説員や御嶽山火山マイスター等による案内、解説、体験促進
- ・ 災害の記録と記憶の伝承と火山防災知識の普及啓発
- ・ パトロール隊、御嶽山火山マイスター等詰所
- ・ 学習場所、実験スペース（屋内外）
- ・ トイレ
- ・ 休憩所、飲食スペース
- ・ 飲食提供（売店、自動販売機等）
- ・ 御岳県立公園の魅力の発信と適正利用の促進 など

## イ 里エリア施設

観光客等多様な来訪者向けに、観光情報や登山情報、火山の知識等の情報をバランスよく発信するとともに、地域住民等の交流拠点としての機能など、次のような機能が必要。

- ・ 御嶽山地域の観光情報
- ・ 火山のリアルタイム情報や登山道情報
- ・ 御嶽山の成り立ち、火山としての歴史
- ・ 御嶽山が育んだ文化・歴史・豊かな自然の魅力発信。解説員や御嶽山火山マイスター等による案内、解説、体験促進
- ・ 災害の記録と記憶の伝承と火山防災知識の普及啓発
- ・ 御嶽山火山マイスターの活動・人材育成拠点
- ・ 火山研究施設
- ・ 研修室など、学習や交流拠点としてのスペース
- ・ 実験スペース（屋内外）
- ・ 飲食スペース、自販機
- ・ 事務所、バックヤード（倉庫）
- ・ 売店 など

### (3) 既存施設との連携

登山者への火山防災情報（火山のリアルタイム情報等）の発信については、スピーカー設置や携帯電話不感地帯解消などの取組がされているが、今なお課題として取組が続けられている。

あり方検討会報告書でも提言されているが、火山防災情報の発信には、ビジターセンターだけではなく山小屋など他の立ち寄り施設と連携することが必要であり、山エリア及び里エリアに新設する施設と、御岳ロープウェイ山麓駅や山小屋等の既存施設において、導入が検討されているデジタルサイネージ<sup>\*</sup>の活用を含めた火山のリアルタイム情報等の発信について検討し、連携した取組を行うことが必要と考える。

〔 ※ディスプレイなどの電子機器を使って情報を発信するメディアを総称して「デジタルサイネージ」という 〕

#### (4) 御嶽山地域めぐりの起点

ビジターセンターの機能として、御嶽山地域全体をフィールドとして捉え、周辺地域の関連施設や観光スポット等へ来訪者を誘導する仕組みも必要である。

また、御嶽山地域を丸ごと「ビジターセンターを入口とした博物館」として捉え、ビジターセンターを起点として、周辺の見どころの整備や関連施設と連携するなど、広域的な周遊ができるよう併せて検討する必要がある。

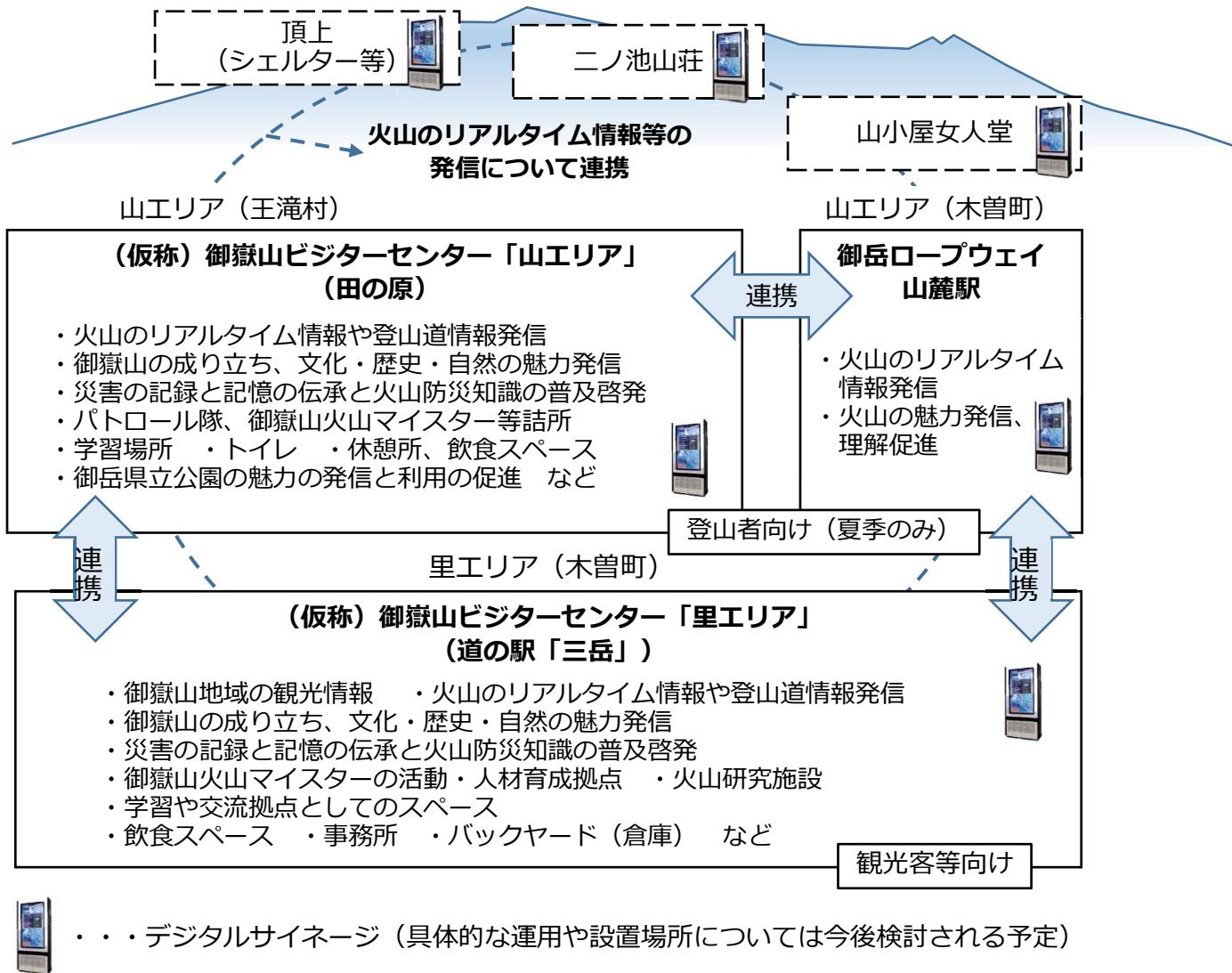
##### 【関連施設と連携した周遊の例】

- ・ 御嶽山噴火災害の慰霊 → 松原スポーツ公園（王滝村）  
御嶽山剣ヶ峰（慰霊碑）（木曽町）
- ・ 御嶽山地域（木曽地域）の → 御料館（木曽町）  
林業の歴史 木曽山林資料館（木曽町）
- ・ 御嶽山の過去の火山活動 → 岐阜県下呂市  
（「日本一の溶岩流」や「巖立峡」）
- ・ 御嶽山信仰 → 霊場（霊神碑群）（木曽町、王滝村）  
木曽福島郷土館（木曽町）
- ・ 木曽から見える星 → 東京大学木曽観測所（木曽町）



## (5) 概略図

各エリアの施設の概略は以下のとおり。



## 6 施設規模

施設規模や構成については、過去の検討経過や類似施設を参考に検討した。

### (1) 類似施設の規模

施設	階層	床面積	展示室	多目的室等	事務室	倉庫	その他
箱根ジオミュージアム	1階	453 m <sup>2</sup>	207 m <sup>2</sup>	32 m <sup>2</sup>	56 m <sup>2</sup>	8 m <sup>2</sup>	150 m <sup>2</sup>
洞爺湖ビジターセンター	2階	1,471 m <sup>2</sup> 1階 1,005 m <sup>2</sup> 2階 466 m <sup>2</sup>	721 m <sup>2</sup>	113 m <sup>2</sup>	140 m <sup>2</sup>	45 m <sup>2</sup>	452 m <sup>2</sup>
火山科学館 (洞爺湖ビジターセンターに隣接)	1階	492 m <sup>2</sup>	279 m <sup>2</sup>	159 m <sup>2</sup>	-	-	54 m <sup>2</sup>
満蒙開拓平和記念館	1階	438 m <sup>2</sup> (別棟セミナー棟 (約 297 m <sup>2</sup> ) 有)	118 m <sup>2</sup>	53 m <sup>2</sup>	17 m <sup>2</sup>	54 m <sup>2</sup>	196 m <sup>2</sup>
伊豆半島ジオパーク ミュージアム ジオリア	1階	500 m <sup>2</sup>	370 m <sup>2</sup>	40 m <sup>2</sup>	70 m <sup>2</sup>	-	22 m <sup>2</sup>

### (2) 施設規模と構成

#### ア 山エリア

6月～10月が開館期間であり、冬期は閉館する。また、登山者利用が中心であることを考慮して検討する。

【新規施設】（仮称）御嶽山ビジターセンター「山エリア」	
面積	約 500 m <sup>2</sup> 程度
費用	未定
展示	登山客向けの火山のリアルタイム情報や登山道情報、防災啓発を中心に、自然公園の魅力も学べるような展示を検討
機能	登山者向けの機能（トイレ、休憩所、売店など）を中心にパトロール隊、御嶽山火山マイスター等詰所、学習場所などを検討
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成割合については、登山者向けの機能や県立自然公園利用の観点を踏まえて検討</li> <li>・冬期間の環境を考慮した構造が必要</li> <li>・再生可能エネルギー・蓄電池を整備し、自然公園施設のRE100<sup>※</sup>を推進</li> </ul> <p>（※企業等が自らの事業の使用電力を100%再生可能エネルギーで賄うことを目指す国際的なイニシアティブを「RE100」という）</p>

(参考)

【既存の施設を活用】

- ・ 御岳ロープウェイ山麓駅センターハウス（里エリア施設サテライト）  
火山のリアルタイム情報等の発信や登山者向けの展示を行う。
- ・ 山小屋等  
火山のリアルタイム情報等の発信を行う。

## イ 里エリア

通年開館であり、御嶽山地域の来訪者等に幅広く対応する。また、火山研究施設や、御嶽山火山マイスターの活動・人材育成拠点の併設を考慮し、ある程度の規模を確保した上で、事務所や倉庫なども含めた構成を検討する。

【新規施設】（仮称）御嶽山ビジターセンター「里エリア」	
面積	約 500 m <sup>2</sup> 程度
費用	未定
展示	観光客等向けの観光情報や御嶽山の自然・文化・歴史展示、登山者向けの火山・登山情報、火山防災の啓発や災害の記録・記憶など幅広い展示を検討
機能	御嶽山火山マイスターの活動・人材育成拠点（事務所、倉庫等）、火山研究施設、学習や交流拠点としてのスペース（多目的室）、飲食スペースなどを検討
構成割合	類似施設の構成割合等を参考に検討
その他	道の駅「三岳」との連携を検討

## ウ その他

山エリア、里エリアともに、長野県が行った「気候非常事態宣言 -2050ゼロカーボンへの決意-※」への取組として、「2050ゼロカーボン」に向けた再生可能エネルギーの導入等の検討が必要と考える。

※2050年には二酸化炭素排出量を実質ゼロにするため、県民一丸となった徹底的な省エネルギーと再生可能エネルギーの普及拡大の推進、エネルギー自立分散型で災害に強い地域づくりを進め、長野県の持続的発展を期するものとして、令和元年（2019年）12月6日に長野県が宣言したもの

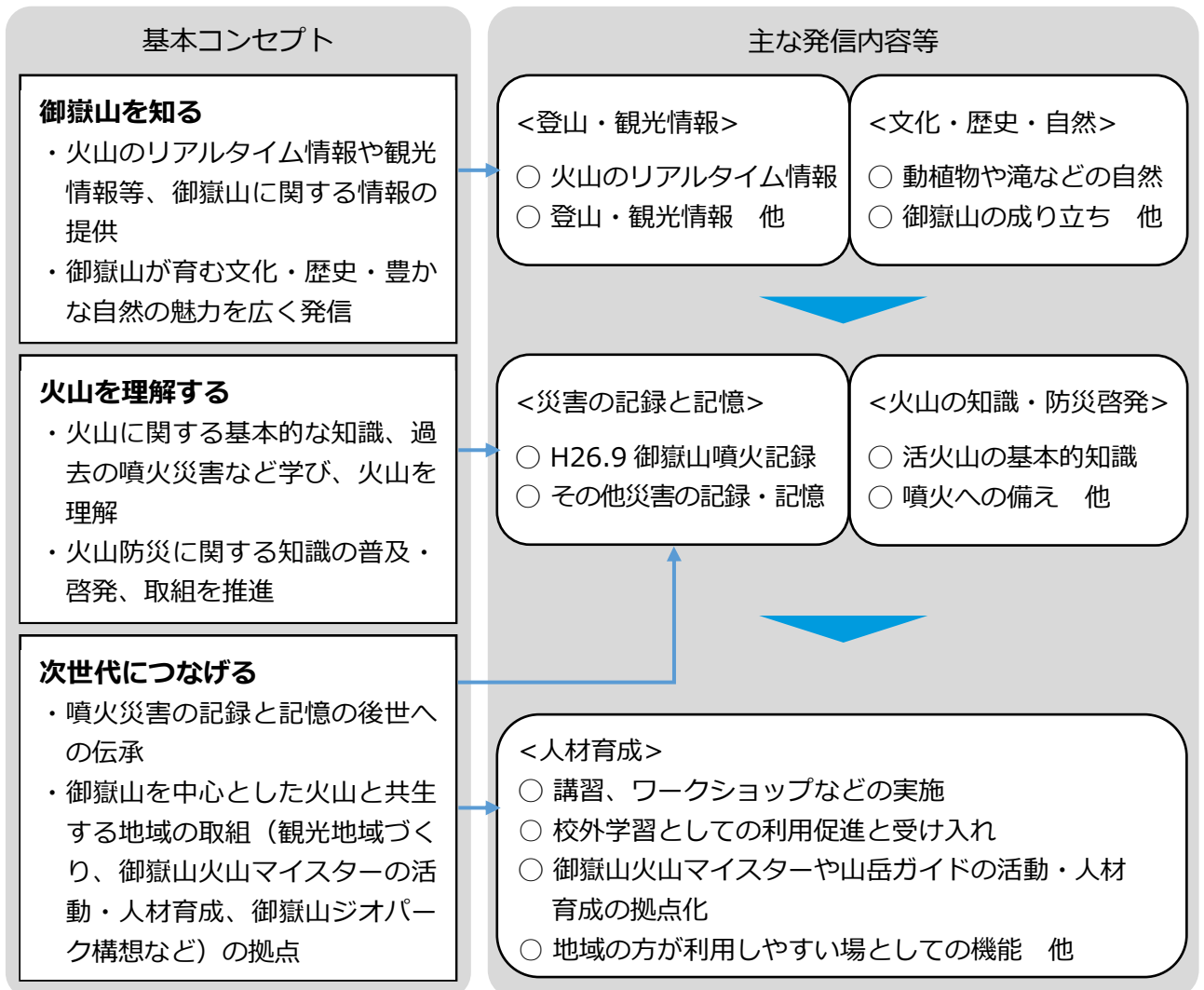
## 7 展示の考え方

### (1) 基本的な考え方

#### ア 展示の基本構成

施設基本コンセプトを基に、御嶽山地域全体（岐阜県側含む）の魅力や火山の成り立ちなどをジオストーリー※として伝えるなど、多くの人々が興味を引く展示を行うとともに、過去に起きた災害の記録と記憶を伝承し、着実に火山防災の啓発にもつなげていくことが必要である。

（※地学的な魅力と、それを背景とした人々の営み（歴史や文化）を物語的にまとめたものを「ジオストーリー」（「ジオ」は「地球・大地」を意味する）という



## イ 大人も子供も楽しめる展示

ビジターセンターの基本コンセプト「御嶽山を知り、火山を理解し、次世代につなげる」の基、多くの人が御嶽山に親しむことができる展示が必要である。

特に、未来を担う子供たちに、御嶽山や火山に親しんで正しく理解してもらうことが重要であり、校外学習での利用も含め、子供たちが気軽に繰り返し訪れてもらえる工夫として、以下のような方法が考えられる。

- ・ 実際に手にとって触れることができる展示や、解説員や御嶽山火山マイスター等による解説、様々な体験、実験など、施設に来ないと経験できないような展示
- ・ 季節や時期による展示内容の変更や企画展、イベントの実施
- ・ 現地で遊べない荒天時でも楽しめる体験（上記実験や映像放映など）

### (2) 展示内容や方法の検討

展示内容や方法の検討にあたっては、山エリアと里エリア（木曽町、王滝村、長野県）が連携して検討し、展示の文言の統一や連動した展示など一体的な展示を行うことを基本として、有識者や御嶽山火山マイスター、地域に精通した専門家等の意見や類似施設の先進事例を参考に、魅力ある展示内容となるよう検討を進めていく必要がある。

なお、展示内容は時とともに変化していくものであることや、季節や期間により展示内容を定期的に入れ替え、繰り返し訪れてもらえるような工夫が必要なことを考慮し、安価で簡易に変更や更新できる仕様とするなどの工夫が必要である。

また、展示物を関連施設や関係者等から借り受けることや、全国の類似施設と連携した相互企画展、巡回展の実施など、既存の財産を生かすことによる、費用の削減や展示の固定化を避ける取組も有効と考えられる。

## 8 設置、管理・運営方針

---

御嶽山ビジターセンターの設置、管理・運営について整理した。

今後、以下を基本とし、木曽町、王滝村、長野県が連携して、ビジターセンターを中心とした御嶽山地域の復興や防災対策に取り組んでいく必要があると考える。

### (1) 設置、管理・運営主体

#### ア 設置主体

- ・ 山エリア 田の原（王滝村） →長野県
  - ・ 里エリア 道の駅「三岳」（木曽町）→木曽町（展示等の充実を県も支援）
- ※既存の御嶽ロープウェイ山麓駅や山小屋等へのデジタルサイネージ設置等については設置所在の町村が設置

#### イ 管理・運営主体

山エリアと里エリアの施設が一体的に活用されるための効率的な方法を含め、今後検討する必要がある。

### (2) 開館期間・時間、入館料

#### ア 開館期間・時間

- ・ 山エリア 田の原
    - ・ 期間：6月から10月（冬期通行止め期間は閉館）
    - ・ 時間：登山者の行動時間を考慮し決定
  - ・ 里エリア 道の駅「三岳」
    - ・ 期間：通年
    - ・ 時間：9時から17時を基本として決定
- 観光客向けの一般的な開館時間である9時～17時を基本とし、登山者向けに、道の駅の営業開始の7時に合わせた部分的な開館や、火山のリアルタイム情報を24時間確認できるようにするなど検討する必要がある。

#### イ 入館料

原則、無料。ビジターセンターの情報発信という役割から無料とし、多くの人に利活用してもらうことが適切と考える。

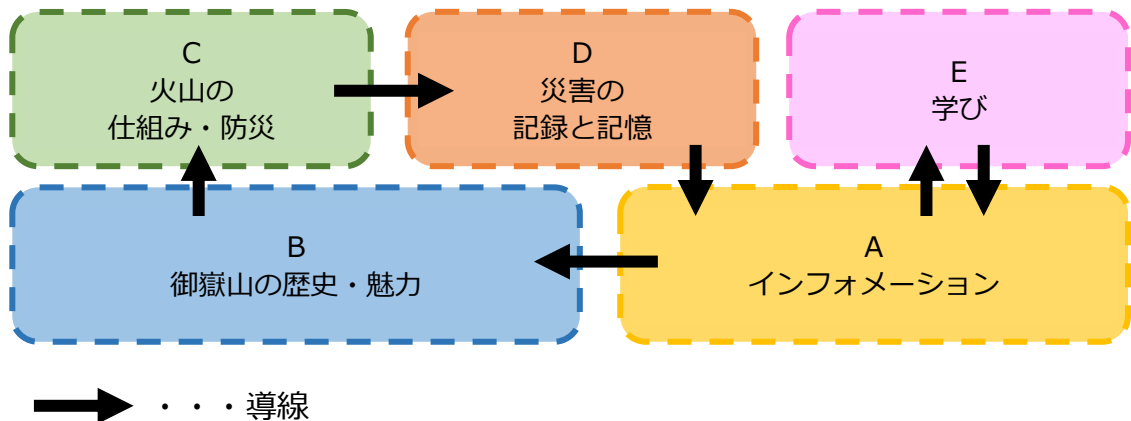
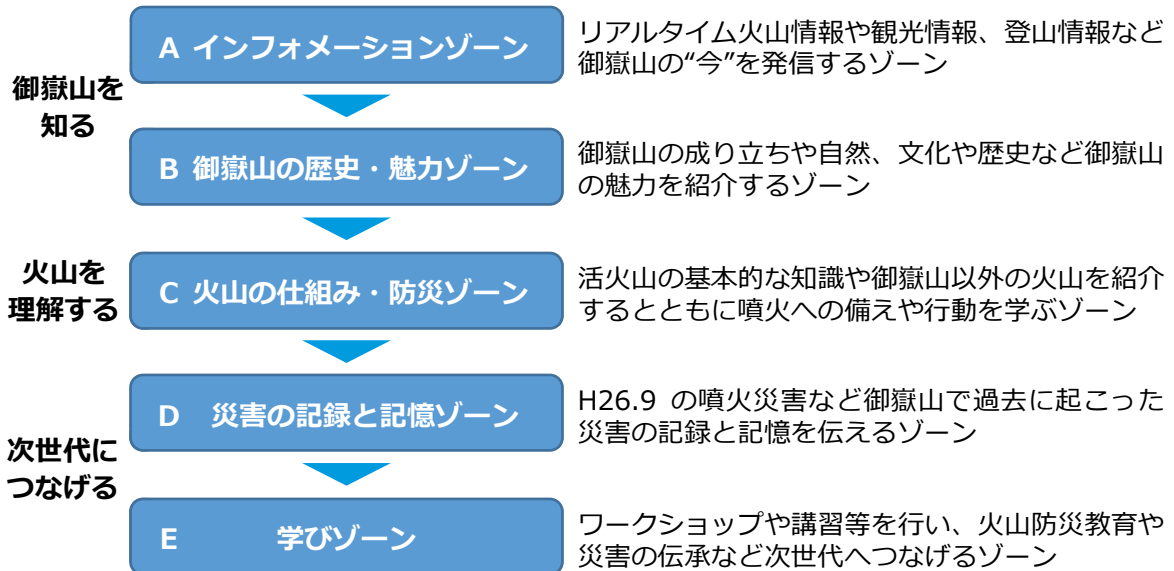
ただし、協力金を募ることや館内構成により一部有料の部分を設定すること、有料ガイドツアーの実施など収入を得る方法を検討する必要があると考える。

## (参考1) 展示手法

### (1) ゾーニングと動線

効果的な展示を行うためには、展示区画（ゾーニング）や動線の設定が重要であるとともに、ゾーン内の展示配置や順番などについても工夫する必要がある。

※展示区画（ゾーニング）と動線の例（里エリアを想定した一例）



### (2) 展示手法

あり方検討会報告書の提案にもあるが、展示（情報発信）の手法としてパネル展示だけではなく、実物展示や映像展示、プロジェクションマッピングやVR、デジタルサイネージ等最新技術を活用するなど、様々な方法で五感に訴える方法が必要である。具体的な内容は今後検討するものであるが、次のとおり展示手法の例をあげる。

## 【展示手法の例】

- ・ **デジタルサイネージによる情報発信**

デジタルサイネージを活用することにより、最新の情報をリアルタイムに更新することができ、火山情報等の注意喚起や観光情報などを視覚的に伝える。

- ・ **火山研究施設観測のデータ公開**

御嶽山火山観測機関が監視しているデータを、ディスプレイなどで来訪者も見ることができるようにすることで、御嶽山の最新の活動状況を視覚的に伝え、防災情報として提供するとともに、生きている地球を体感してもらう。

- ・ **立体模型プロジェクションマッピング**

御嶽山の立体白模型へプロジェクションマッピングを用いて映像を投影することにより、立体的に御嶽山の成り立ちや噴火時の火砕流等の動きなどを紹介する。

- ・ **実物展示**

2016年の御嶽山噴火時の噴石、噴火により被害を受けた頂上祈禱（きとう）所の壁、アラミド繊維、動植物の標本、登山道具、噴火災害で被災した物品などの実物を展示し、御嶽山をよりリアルに感じてもらう。

- ・ **VR体験**

噴石シミュレーターによる噴石体験や、空からの映像で御嶽山を上から見るなど、VRを用いて通常では体験できない体験をしてもらう。

- ・ **パネル展示**

写真や文字を用いた一般的なパネル展示も、QRコードを活用してスマホなどの端末上で映像を見ることができたり、読み上げや多言語対応するなど、ICTの活用を検討する。

- ・ **映像展示**

御嶽山の成り立ち解説や、噴火災害被災者の証言など、文字だけでは伝えきれない内容について、映像や音声を用いて解説する。

- ・ **解説員や御嶽山火山マイスター等による館内案内**

説明を聞きながら展示を見ることにより、より深く理解してもらう。



## (参考2) アンケート調査結果

検討に当たっては、御嶽山地域を訪れる登山者や観光客のニーズや、御嶽山情報の伝え方やビジターセンターに必要な事項について把握するため、御嶽山訪問者へのアンケート調査及び御嶽山火山マイスターへのアンケート調査を行った。

アンケートの実施概要は以下のとおり。

### (1) 訪問者アンケート調査概要

御岳ロープウェイセンターハウス（木曽町）及び田の原（王滝村）の2か所で、来訪者（登山者や観光客等）を対象にアンケート用紙を手渡しして記入してもらう方法で実施。

#### ア 御岳ロープウェイセンターハウス（木曽町）

- ・ 実施日時

令和元年7月13日（土）6時～10時30分（4時間30分）※3連休初日

- ・ 回収数 232件

#### イ 田の原（王滝村）

- ・ 実施日時

令和元年8月10日（土）9時～12時（3時間）※3連休初日

- ・ 回収数 97件

### (2) 御嶽山火山マイスターへのアンケート調査概要

御嶽山火山マイスター11名へアンケート調査の依頼。アンケート用紙を渡して後日回答してもらう方法で実施。

- ・ アンケート期間 令和元年7月12日（金）～
- ・ 回答数 7名



御嶽山ビジターセンター建設専門委員会設置要綱

平成30年7月24日告示第48号

(設置)

第1条 御嶽山ビジターセンター実施計画に基づき、御嶽山ビジターセンター（以下「V C」という。）の建設に関して、より具体的な内容を検討するため、御嶽山ビジターセンター建設専門委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を検討する。

- (1) V Cの施設及び展示内容に関すること。
- (2) V Cの基本設計及び実施設計に向けた協議に関すること。
- (3) その他V Cの建設に必要と認められる事項。

(組織)

第3条 委員会の委員は、次に掲げる者のうちから、町長が委嘱する。

- (1) 御嶽山及び火山関係の有識者
- (2) 県及び町村関係者
- (3) その他町長が特に必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、第2条に定める事務が終了したことを町長が認めたときまでとする。ただし、委員を委嘱された時の要件を欠くに至ったときは、委員の職を失うものとする。

2 補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は委員の互選により選出し、副委員長は委員の中から委員長が指名する。

2 委員長は、委員会を統括し、委員会を統括する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、委員長が会議の議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 委員長は、会議に必要と認めるときは、委員以外の識見を有する者の意見又は資料を求めることができる。

(作業部会)

第7条 委員会の特定事項について、調査検討等を行い、委員会の討議に資するため、必要に応じて委員会に部会を置くことができる。

2 作業部会は、部会長、副部会長、部会員をもって構成し、部会長は委員長が任命する。

3 部会長は、部会における検討等の内容について、随時、委員会に報告するものとする。

4 その他作業部会に必要な事項は別に定める。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、企画財政課においてこれを処理する。

(補則)

第9条 この告示に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この告示は、公布の日から施行する。

附 則（平成31年4月1日告示第21号）

この告示は、公布の日から施行する。

附 則（令和元年7月26日告示第46号）

この告示は、公布の日から施行する。

御嶽山ビジターセンター建設専門委員会 委員名簿（令和元年度）

番号	委員等	職名	氏名	備考
1	委員	木曽町文化財保護審議会会長	楯 誠治	木曽町御嶽山関係有識者
2		石室山荘経営者 御嶽山火山マイスター	向井 修一	木曽町御嶽山関係有識者
3		王滝村誌編纂室長 御嶽山火山マイスター (同ネットワーク代表)	澤田 義幸	王滝村御嶽山関係有識者
4		名古屋大学 御嶽山火山研究施設 特任准教授	國友 孝洋	火山関係有識者
5		産業技術総合研究所 火山活動研究グループ 主任研究員	及川 輝樹	火山関係有識者
6		みたけグルメ工房 代表	西尾 禮子	地元代表
7		長野県環境部自然保護課 課長	今井 達哉	長野県
8		長野県木曽地域振興局 副局長	宇都宮 純	長野県
9		木曽町副町長	正澤 隆	木曽町（委員長）
10		王滝村副村長	越原 道廣	王滝村
事務局	木曽町	企画財政課長	齋藤 政美	
		企画財政課地域振興係長	伊藤 尚人	
		企画財政課地域振興係	三好 悠介	
	王滝村	総務課長	橋本 悟志	
		総務課課長補佐兼企画係長	高田 慎一	
		総務課財産管理係長	稗田 実	
	長野県	長野県木曽地域振興局 企画振興課長	血脇 秀明	
		長野県企画振興部 地域振興課総合調整幹	新津 俊二	
		長野県危機管理部 危機管理防災課火山防災幹	渋沢 陽一	

御嶽山ビジターセンター建設専門委員会作業部会設置要綱

令和元年 7 月 26 日 告示第 47 号

(設置)

第 1 条 この告示は、御嶽山ビジターセンター建設専門委員会設置要綱（平成 30 年 7 月 24 日 告示第 48 号）第 7 条の規定に基づき設置する作業部会に関し、必要な事項を定める。

(所掌事務)

第 2 条 作業部会は、御嶽山ビジターセンター建設の適地、方針、規模、内容等建設に必要な事項を検討及び検証し、基本計画を策定する。

(組織)

第 3 条 作業部会は、部会長、副部会長、部会員をもって構成する。

- 2 作業部会は、木曽町、王滝村、長野県の職員によって組織する。
- 3 部会長は委員長が任命する。
- 4 作業部会の構成及び運営は部会長に一任する。

(会議)

第 4 条 作業部会は、必要に応じて部会長が招集し、主宰する。

- 2 部会長が、やむを得ない理由により作業部会に出席することができないときは、部会長があらかじめ指名する者が、作業部会を主宰する。
- 3 副部会長及び部会員は、都合により作業部会を欠席する場合は、代理の者を出席させることができる。
- 4 作業部会は、必要に応じて作業部会員以外の職員の出席を求めることができる。

(報告及び承認)

第 5 条 検討等の内容について、随時、委員会に報告するとともに、策定した基本計画については、委員会の承認を受けるものとする。

(庶務)

第 6 条 作業部会の庶務は、企画財政課において処理する。

(補則)

第7条 この告示に定めるもののほか、作業部会の運営に関し必要な事項は、部会長が別に定める。

附 則

この告示は、令和元年7月26日から施行する。

御嶽山ビジターセンター建設専門委員会作業部会 部会員名簿（令和元年度）

番号	所属		職名	氏名	備考
1	木曽町	企画財政課	課長	齋藤 政美	(部会長)
2		観光商工課	課長	越 孝弘	
3		総務課 危機管理室	室長 兼木曽福島地域担当課長	古野 昌敏	
4	王滝村	総務課	課長	橋本 悟志	(副部会長)
5		経済産業課	課長	森 健一	
6	長野県	企画振興部 総合政策課	総合調整幹	新津 俊二	(副部会長)
7		危機管理部 危機管理防災課	火山防災幹	渋沢 陽一	
8		環境部 自然保護課	企画幹兼課長補佐	村井 昌久	
9		木曽地域振興局 企画振興課	課長	血脇 秀明	(副部会長)
10		木曽地域振興局 企画振興課	広域連携推進幹	鷺澤 太	
11		木曽地域振興局 環境課	課長	平澤 稔秀	
12		木曽地域振興局 商工観光課	課長	大槻 直樹	
事務局	木曽町	企画財政課	地域振興係長	伊藤 尚人	
		企画財政課 地域振興係	主任	三好 悠介	
		総務課	課長補佐	村木 賢次	
	王滝村	総務課	課長補佐 兼企画係長	高田 慎一	
		総務課	財産管理係長	稗田 実	

## 御嶽山ビジターセンター検討に係るアンケート集計結果

(登山者・観光客／御岳ロープウェイ山麓駅)

令和元年（2019年）7月

長野県木曾地域振興局・木曾町

### 1 調査の概要

---

(1) 調査目的

ビジターセンターの建設検討にあたり、建設場所や展示内容、付帯施設などの検討の参考とすることを目的としている。

(2) アンケート実施日時

令和元年（2019年）7月13日（土）6時～10時30分（4時間30分間）

(3) アンケート実施場所

御岳ロープウェイ山麓駅 センターハウス1階

(4) 調査対象者

御岳ロープウェイ山麓駅を訪れた登山客や観光客等

(5) 調査方法

上記場所にてアンケート用紙を来訪者に渡し、記入してもらう方法

(6) 回収数 232件



## 2 アンケート様式

---

御嶽山を訪問していただいた方へのアンケート

\_\_\_\_\_人グループでお越し      マイカー・観光バス・路線バスを利用

問1 本日はどちらからお越しですか（該当するものに○をつけてください）

①中京地域 ②関東地域 ③長野県内 ④その他（具体的に \_\_\_\_\_）

問2 本日の目的は（該当するものに○をつけてください）

①登山 ②観光（1 ロープウェイ 2 自然散策） ③その他（具体的に \_\_\_\_\_）

問3 御岳ロープウェイにお越しいただく前に、木曾地域でどこかに寄られましたか（該当するものに○をつけてください。いくつでも可）

①道の駅（1 木曾福島、2 三岳、3 日義木曾駒高原 4 その他） ②コンビニ  
③その他（具体的に \_\_\_\_\_）

問4 問3の施設をどのような目的で利用されましたか（該当するものに○をつけてください。いくつでも可）

①物品の購入（1 飲食物、2 おみやげ、3 その他） ②トイレ ③休憩  
④その他（具体的に \_\_\_\_\_）

問5 御嶽山を訪れる方への施設には、どのような内容があると思いますか（該当するものに○をつけてください。いくつでも可）

①現在の火山活動情報 ②御嶽山の自然や歴史情報  
③より安全に登山するための情報 ④噴火災害を風化させない記録情報  
⑤木曾地域の観光情報 ⑥ガイドツアー ⑦飲食販売 ⑧お土産販売 ⑨宿泊

問6 本日の登山、観光では宿泊をされますか

①はい 1 山小屋 2 宿泊施設（木曾地域・それ以外の地域： \_\_\_\_\_）

②いいえ

問7 御嶽山の訪問は何回目ですか。木曾地域への訪問は何回目ですか

御嶽山 \_\_\_\_\_回目      木曾地域 \_\_\_\_\_回目

その他ご意見等あればなんでも教えてください。

---

---

ありがとうございました。  
木曾の自然をゆっくり楽しんでください。

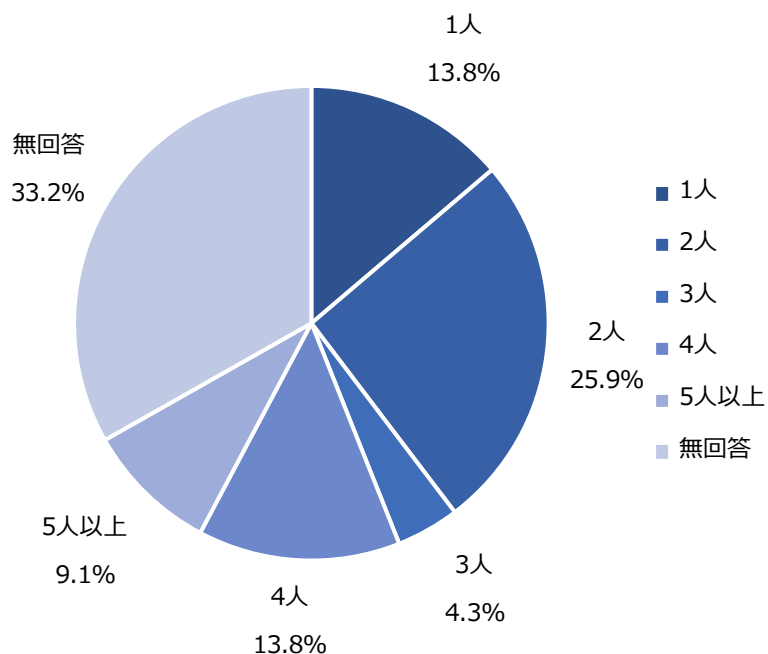
### 3 アンケート結果

以下にアンケートの設問ごとの集計結果を示す。グラフ内の数字は回答者数

#### 来訪人数

来訪人数	人数
1人	32
2人	60
3人	10
4人	32
5人以上	21
無回答	77
合計	232

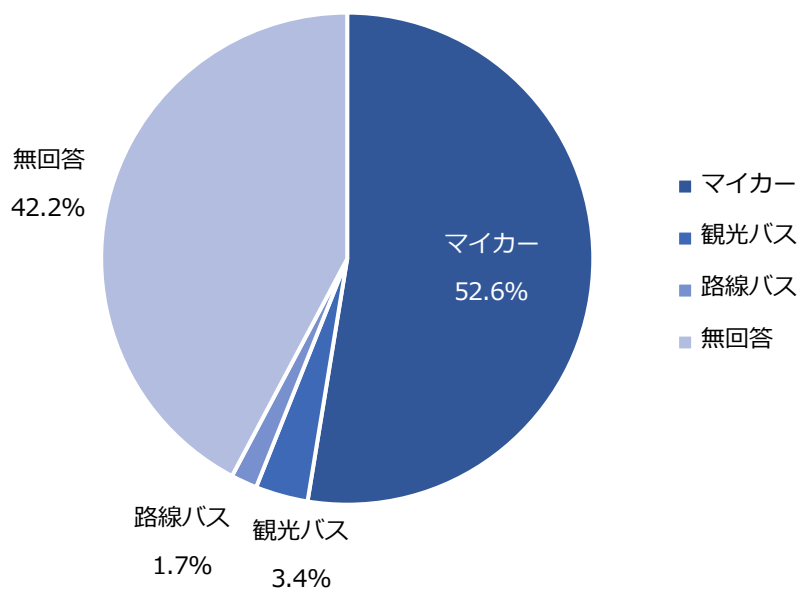
(n=232)



#### 来訪手段

来訪手段	人数
マイカー	122
観光バス	8
路線バス	4
無回答	98
合計	232

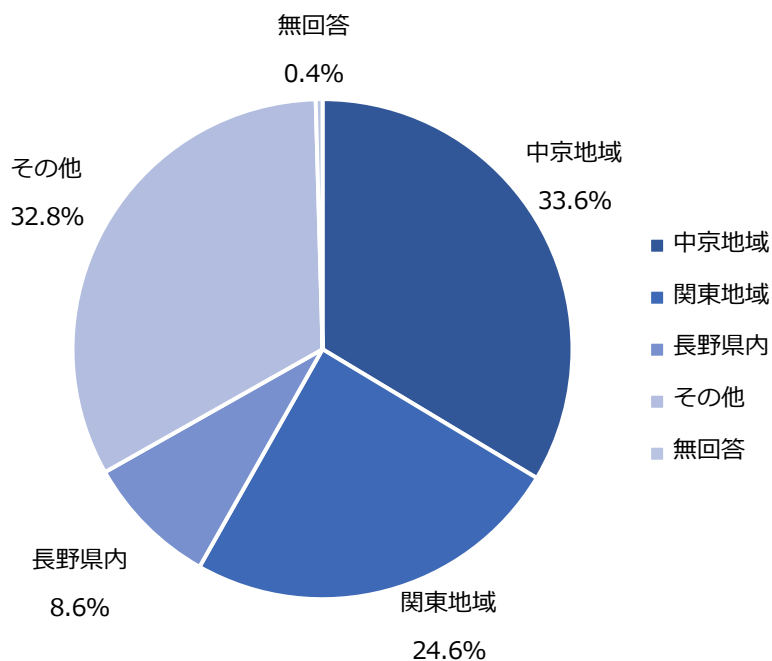
(n=232)



### 問1 本日はどちらからお越しですか

地域	人数
中京地域	78
関東地域	57
長野県内	20
その他	76
無回答	1
合計	232

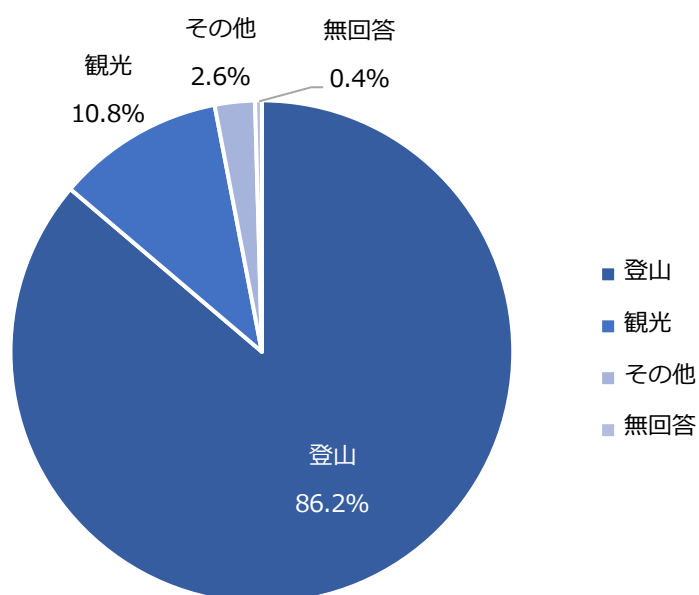
(n=232)



### 問2 本日の目的は

目的	人数
登山	200
観光	25
その他	6
無回答	1
合計	232

(n=232)

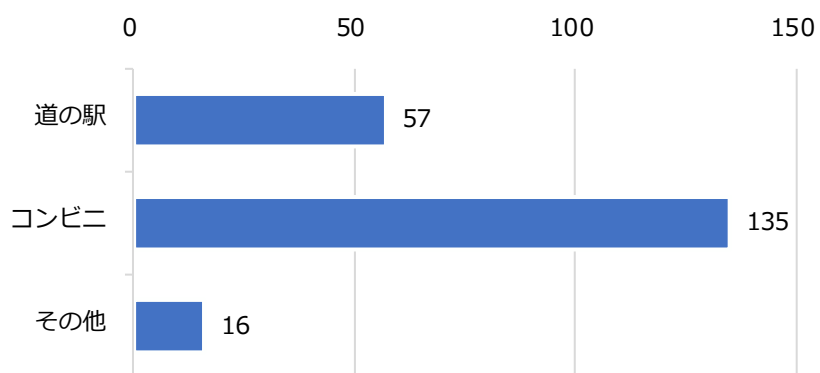


問3 御岳ロープウェイにお越しいただく前に、木曾地域でどこかに寄られましたか

(複数回答可)

場所	人数
道の駅	57
コンビニ	135
その他	16

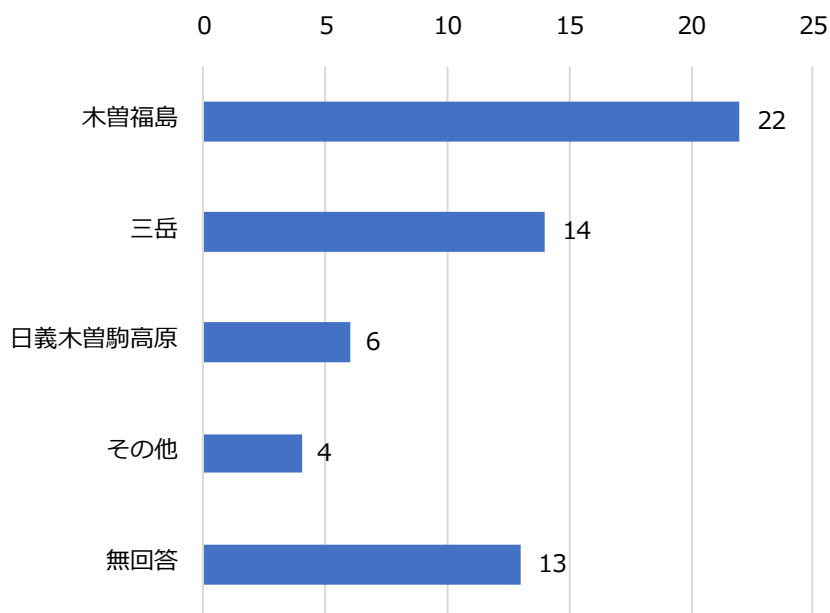
(n=189)



問3-1 立ち寄った道の駅の内訳 (複数回答可)

駅名	人数
木曾福島	22
三岳	14
日義木曾駒高原	6
その他	4
無回答	13

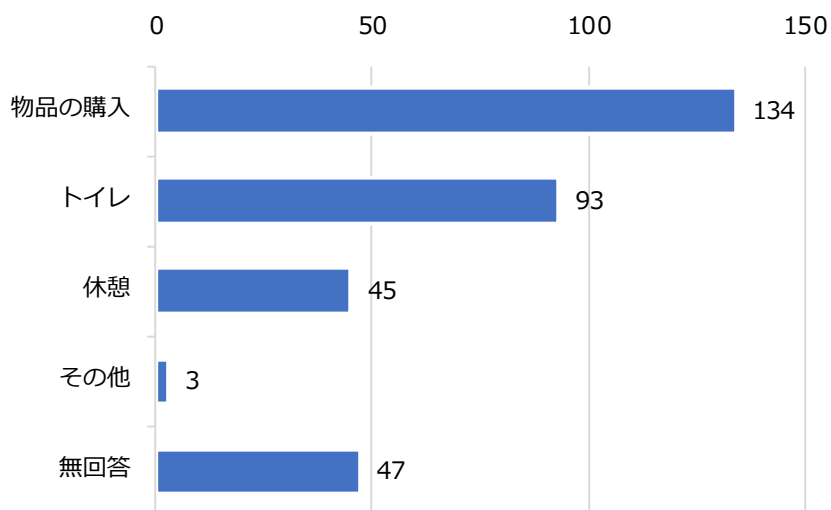
(n=57)



問4 問3の施設をどのような目的で利用されましたか（複数回答可）

目的	人数
物品の購入	134
トイレ	93
休憩	45
その他	3
無回答	47

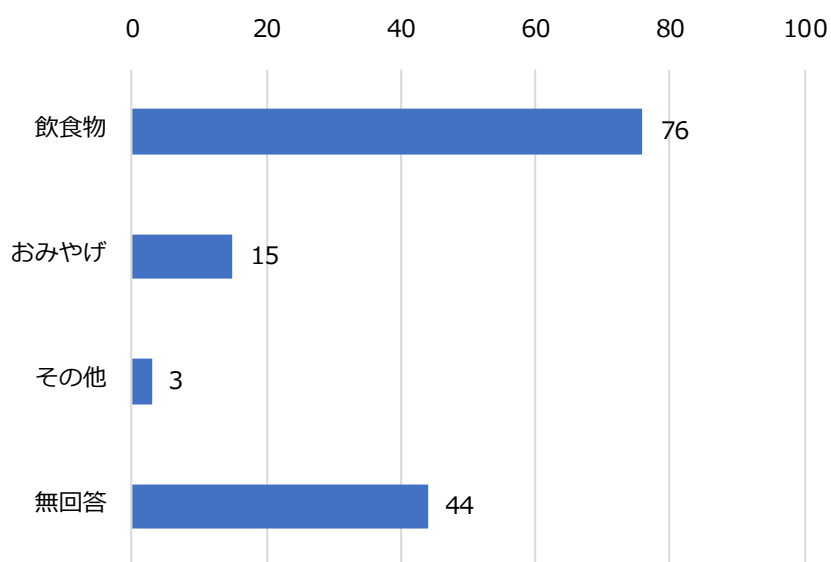
(n=189)



問4-1 購入した物品の内訳（複数回答可）

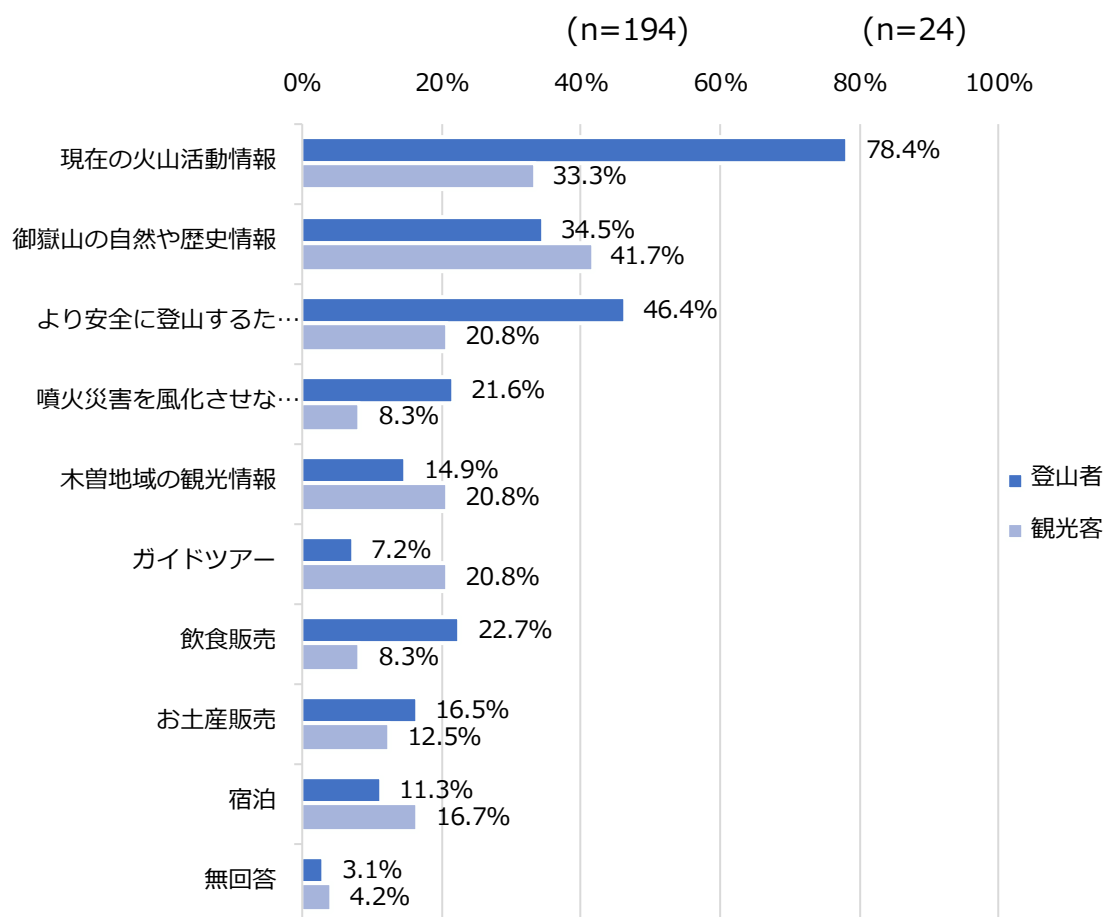
購入品	人数
飲食物	76
おみやげ	15
その他	3
無回答	44

(n=134)



問5 御嶽山を訪れる方への施設には、どのような内容があるといいと思いますか  
(複数回答可)

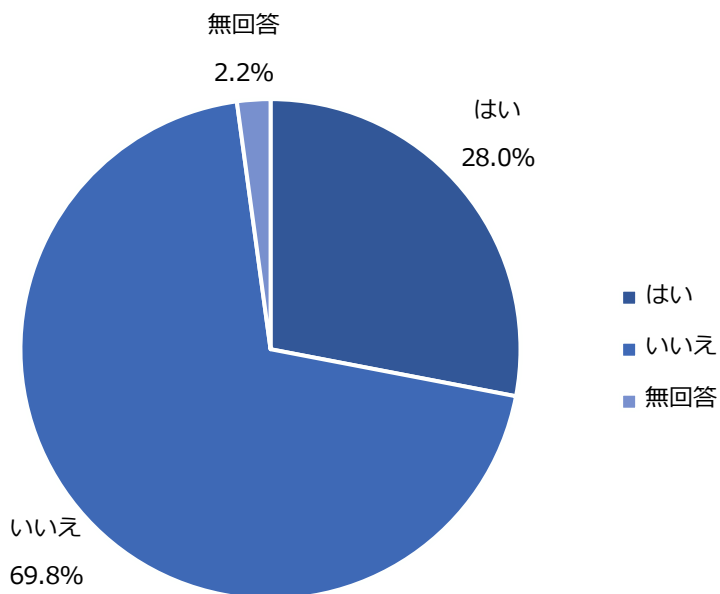
欲しい施設内容	登山者		観光客	
	人数	割合	人数	割合
現在の火山活動情報	152	78.4%	8	33.3%
御嶽山の自然や歴史情報	67	34.5%	10	41.7%
より安全に登山するための情報	90	46.4%	5	20.8%
噴火災害を風化させない記録情報	42	21.6%	2	8.3%
木曽地域の観光情報	29	14.9%	5	20.8%
ガイドツアー	14	7.2%	5	20.8%
飲食販売	44	22.7%	2	8.3%
お土産販売	32	16.5%	3	12.5%
宿泊	22	11.3%	4	16.7%
無回答	6	3.1%	1	4.2%



問6 本日の登山、観光では宿泊をされますか

宿泊するか	人数
はい	65
いいえ	162
無回答	5
合計	232

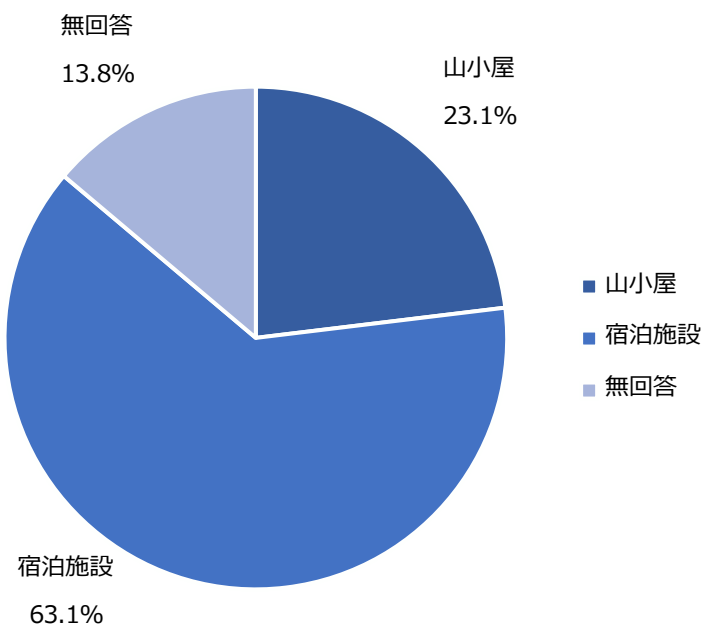
(n=232)



問6-1 宿泊する施設の種別

施設	人数
山小屋	15
宿泊施設	41
無回答	9
合計	65

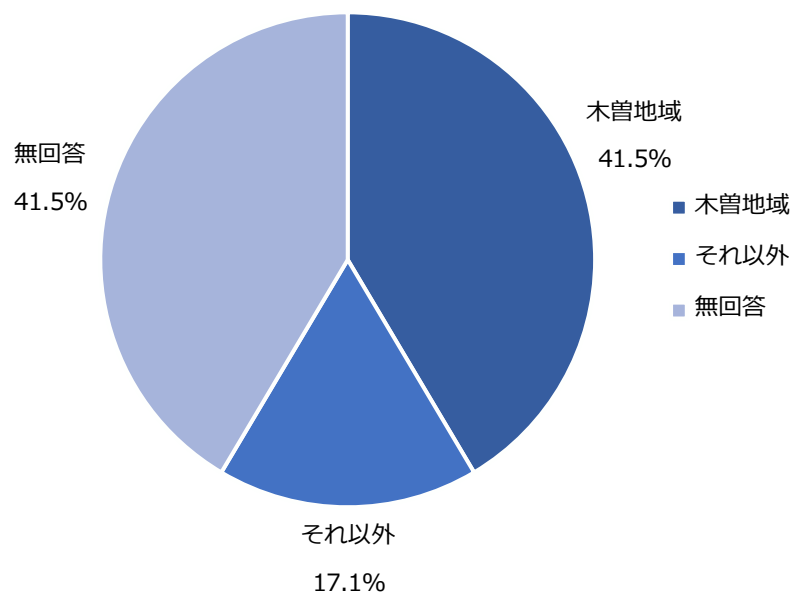
(n=65)



### 問6-1-2 宿泊施設の場所

宿泊施設場所	人数
木曽地域	17
それ以外	7
無回答	17
合計	41

(n=41)

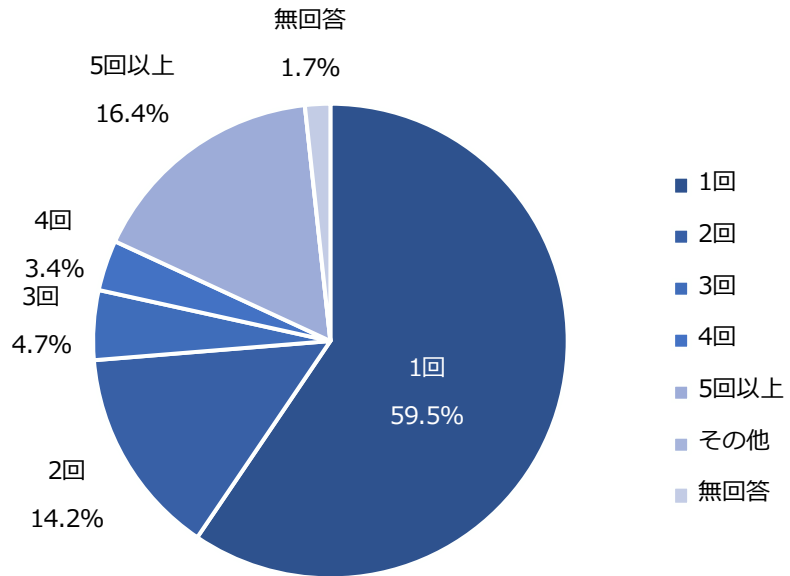




問7-1 御嶽山の訪問は何回目ですか

来訪回数	人数
1回	138
2回	33
3回	11
4回	8
5回以上	38
その他	0
無回答	4
合計	232

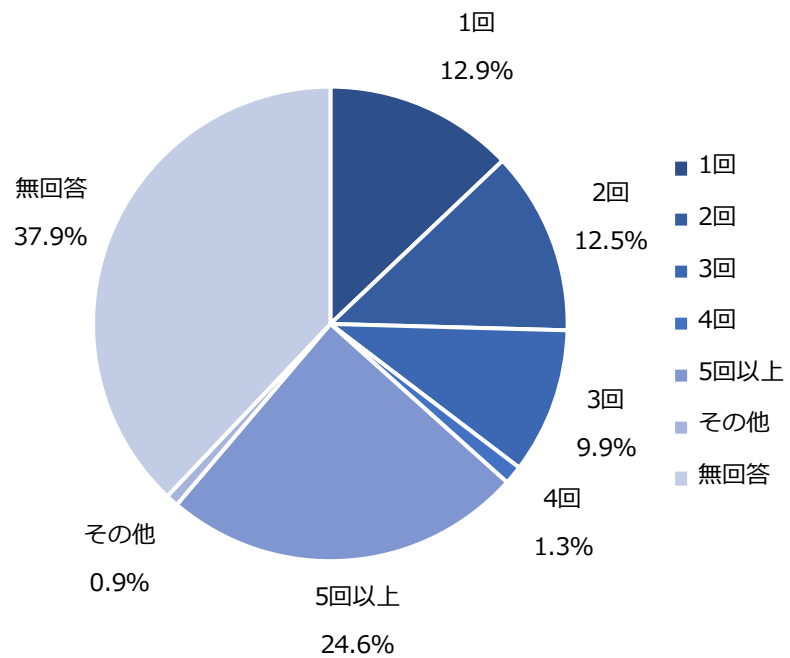
(n=232)



問7-2 木曽地域の訪問は何回目ですか

来訪回数	人数
1回	30
2回	29
3回	23
4回	3
5回以上	57
その他	2
無回答	88
合計	232

(n=232)



# 御嶽山ビジターセンター検討に係るアンケート集計結果

(登山者・観光客／田の原)

令和元年（2019年）8月

長野県木曾地域振興局・王滝村

## 1 調査の概要

---

### (1) 調査目的

ビジターセンターの建設検討にあたり、建設場所や展示内容、付帯施設などの検討の参考とすることを目的としている。

### (2) アンケート実施日時

令和元年（2019年）8月10日（土）9時～12時（3時間）

### (3) アンケート実施場所

田の原（王滝村）

### (4) 調査対象者

田の原を訪れた登山客や観光客等

### (5) 調査方法

上記場所にてアンケート用紙を来訪者に渡し、記入してもらう方法

### (6) 回収数 97件

## 2 アンケート様式

御嶽山を訪問していただいた方へのアンケート

R1. 8. 10 王滝村（田の原）

                     人グループでお越し                                           マイカー・観光バス・路線バスを利用

問1 本日はどちらからお越しですか（該当するものに○をつけてください）

①中京地域 ②関東地域 ③長野県内 ④その他（具体的に                    ）

問2 本日の目的は（該当するものに○をつけてください）

①登山 ②観光（1 ドライブ 2 自然散策） ③その他 参拝（具体的に                    ）

問3 御岳ロープウェイにお越しいただく前に、木曾地域でどこかに寄られましたか（該当するものに○をつけてください。いくつでも可）

①道の駅（1 木曾福島、2 三岳、3 日義木曾駒高原 4 その他） ②コンビニ  
③その他（具体的に                    ）

問4 問3の施設をどのような目的で利用されましたか（該当するものに○をつけてください。いくつでも可）

①物品の購入（1 飲食物、2 おみやげ、3 その他） ②トイレ ③休憩  
④その他（具体的に                    ）

問5 御嶽山を訪れる方への施設には、どのような内容があると思いますか（該当するものに○をつけてください。いくつでも可）

①現在の火山活動情報 ②御嶽山の自然や歴史情報  
③より安全に登山するための情報 ④噴火災害を風化させない記録情報  
⑤木曾地域の観光情報 ⑥ガイドツアー ⑦飲食販売 ⑧お土産販売 ⑨宿泊

問6 本日の登山、観光では宿泊をされますか

①はい 1 山小屋 2 宿泊施設（木曾地域・それ以外の地域：                    ）  
②いいえ

問7 御嶽山の訪問は何回目ですか。木曾地域への訪問は何回目ですか

御嶽山       回目 木曾地域       回目

その他ご意見等あればなんでも教えてください。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

ありがとうございました。  
木曾の自然をゆっくり楽しんでください。

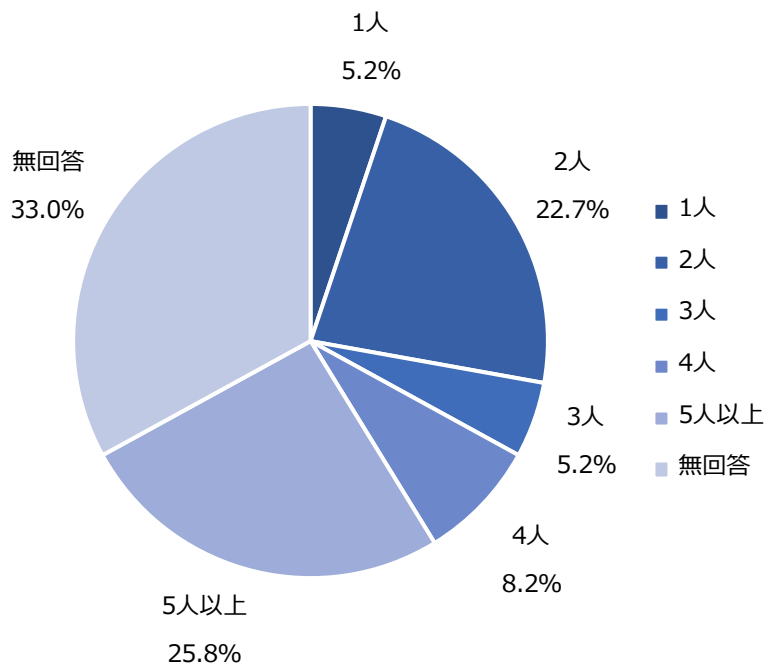
### 3 アンケート結果

以下にアンケートの設問ごとの集計結果を示す。グラフ内の数字は回答者数

#### 来訪人数

来訪人数	人数
1人	5
2人	22
3人	5
4人	8
5人以上	25
無回答	32
合計	97

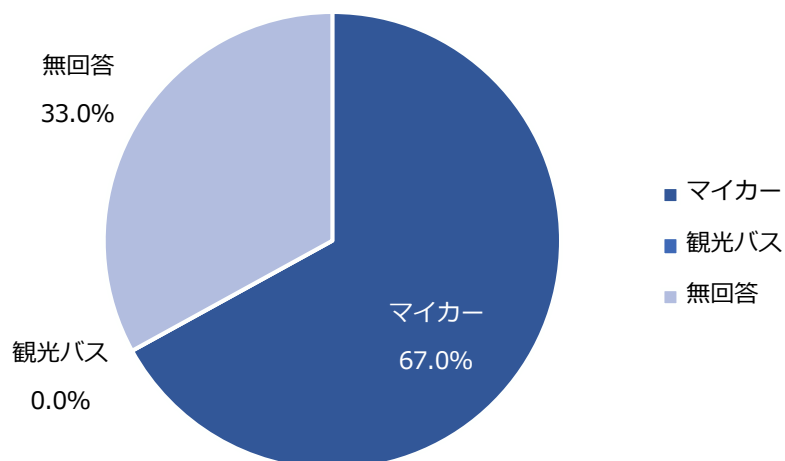
(n=97)



#### 来訪手段

来訪手段	人数
マイカー	65
観光バス	0
無回答	32
合計	97

(n=97)

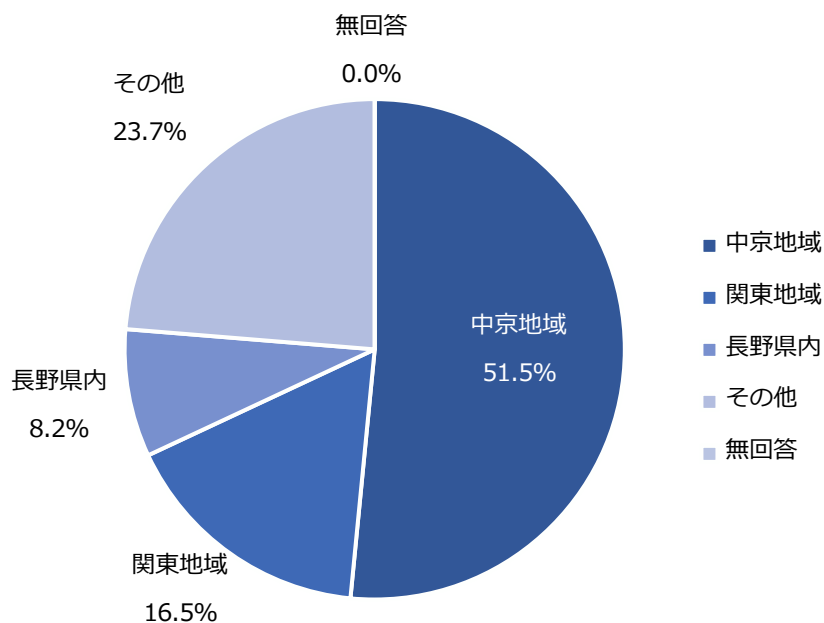


※路線バス運休中

### 問1 本日はどちらからお越しですか

地域	人数
中京地域	50
関東地域	16
長野県内	8
その他	23
無回答	0
合計	97

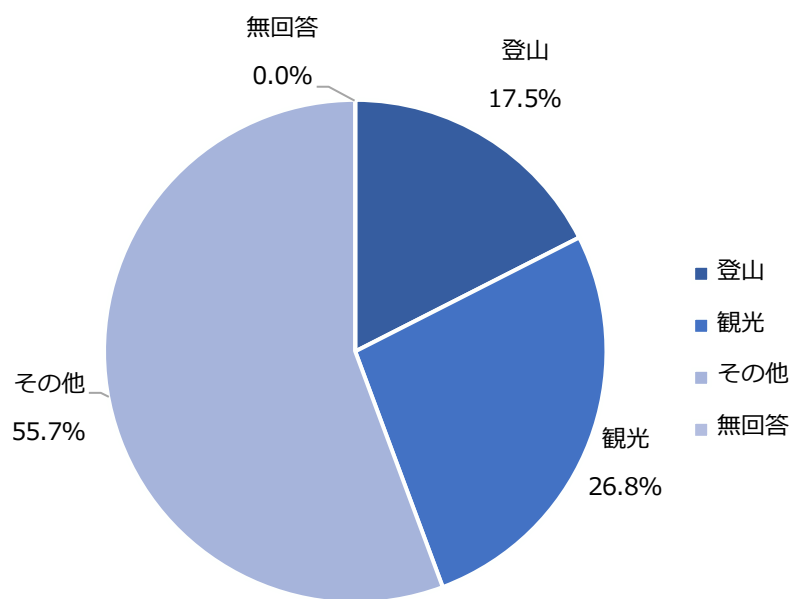
(n=97)



### 問2 本日の目的は

目的	人数
登山	17
観光	26
その他	54
無回答	0
合計	97

(n=97)



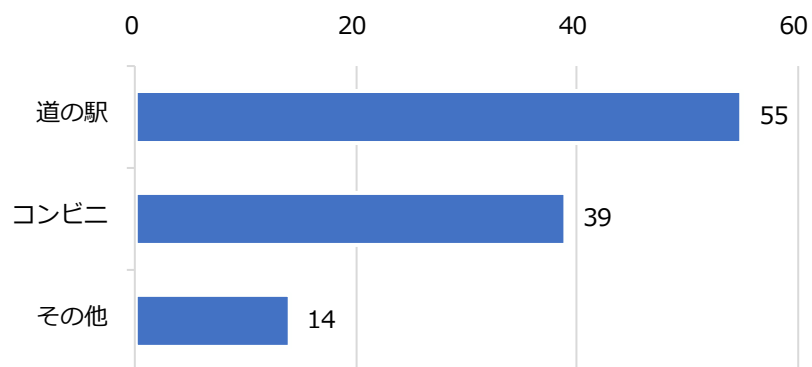
※その他の内 37名（68.5%（全体の 38.1%））が参拝を目的としていた。

問3 御岳ロープウェイにお越しいただく前に、木曽地域でどこかに寄られましたか

(複数回答可)

場所	人数
道の駅	55
コンビニ	39
その他	14

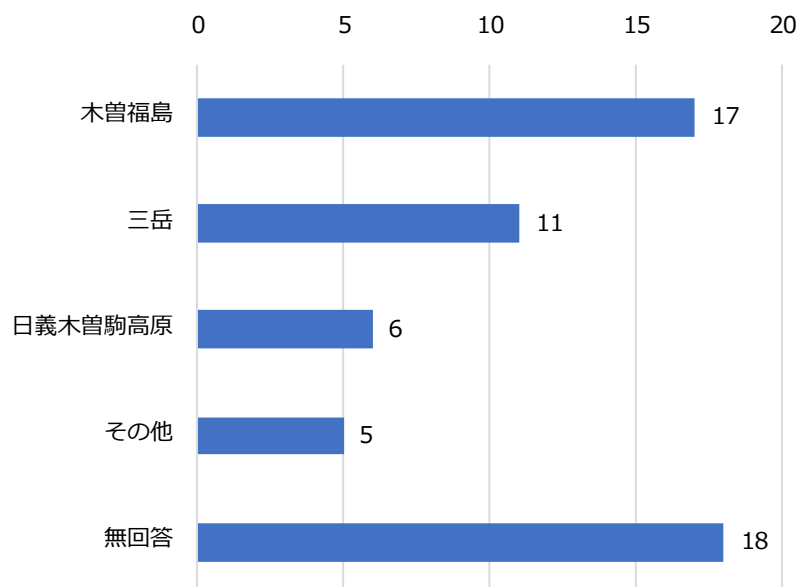
(n=89)



問3-1 立ち寄った道の駅の内訳 (複数回答可)

駅名	人数
木曽福島	17
三岳	11
日義木曽駒高原	6
その他	5
無回答	18

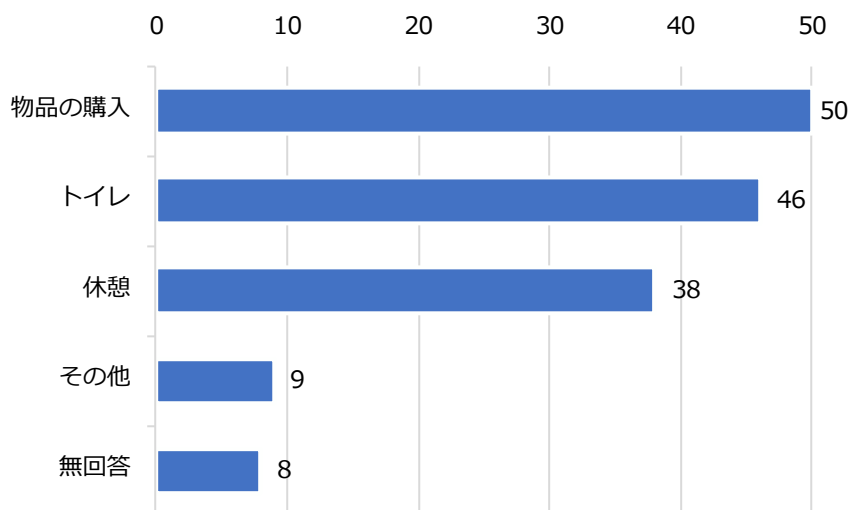
(n=55)



問4 問3の施設をどのような目的で利用されましたか（複数回答可）

目的	人数
物品の購入	50
トイレ	46
休憩	38
その他	9
無回答	8

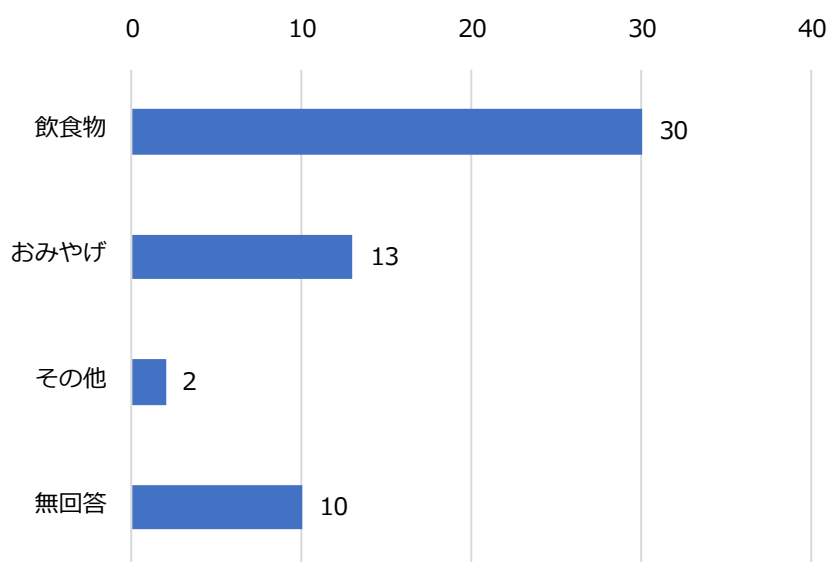
(n=89)



問4-1 購入した物品の内訳（複数回答可）

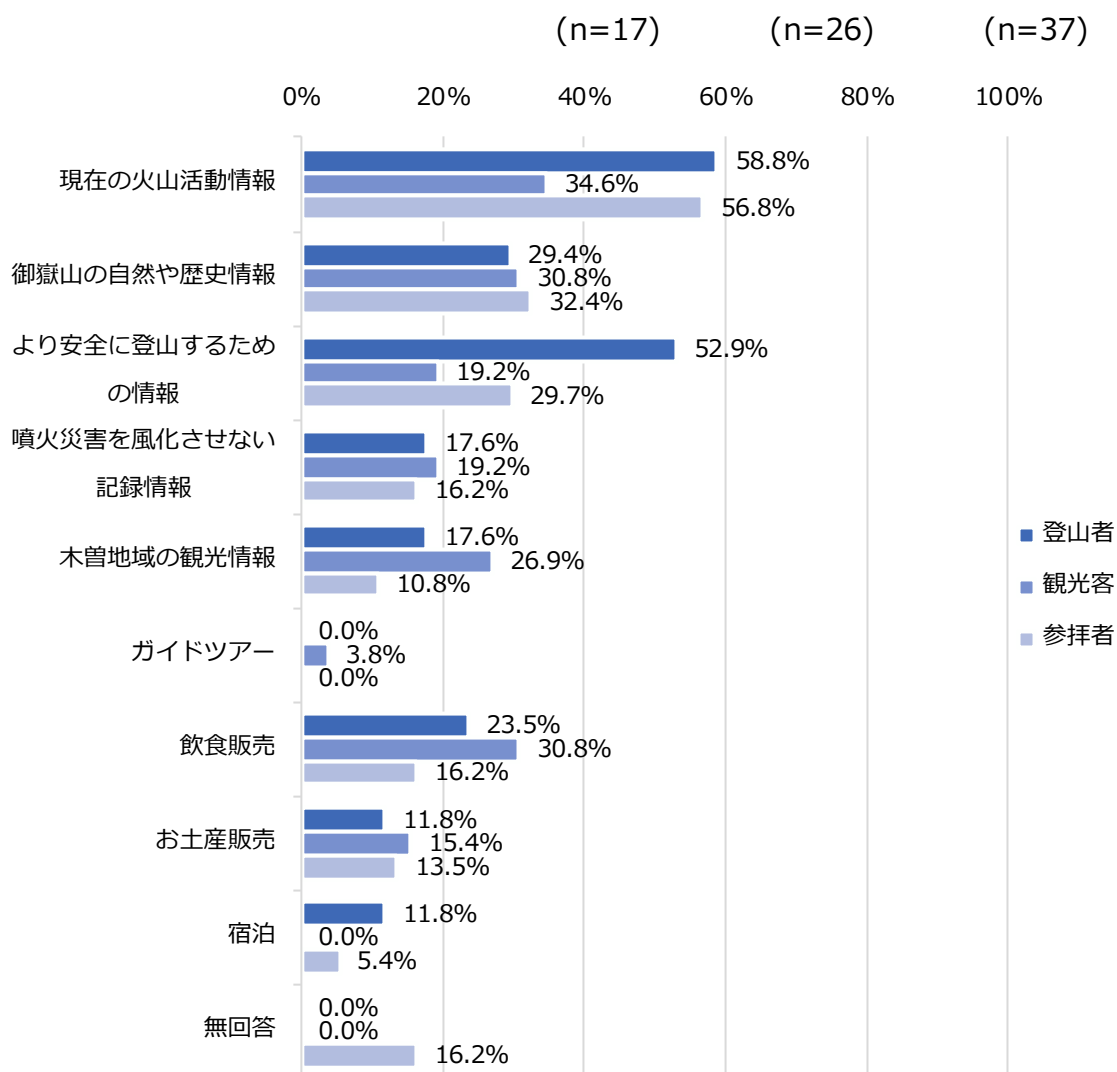
購入品	人数
飲食物	30
おみやげ	13
その他	2
無回答	10

(n=50)



問5 御嶽山を訪れる方への施設には、どのような内容があるといいと思いますか  
(複数回答可)

欲しい施設内容	登山者		観光客		参拝者	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
現在の火山活動情報	10	58.8%	9	34.6%	21	56.8%
御嶽山の自然や歴史情報	5	29.4%	8	30.8%	12	32.4%
より安全に登山するための情報	9	52.9%	5	19.2%	11	29.7%
噴火災害を風化させない記録情報	3	17.6%	5	19.2%	6	16.2%
木曽地域の観光情報	3	17.6%	7	26.9%	4	10.8%
ガイドツアー	0	0.0%	1	3.8%	0	0.0%
飲食販売	4	23.5%	8	30.8%	6	16.2%
お土産販売	2	11.8%	4	15.4%	5	13.5%
宿泊	2	11.8%	0	0.0%	2	5.4%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	6	16.2%

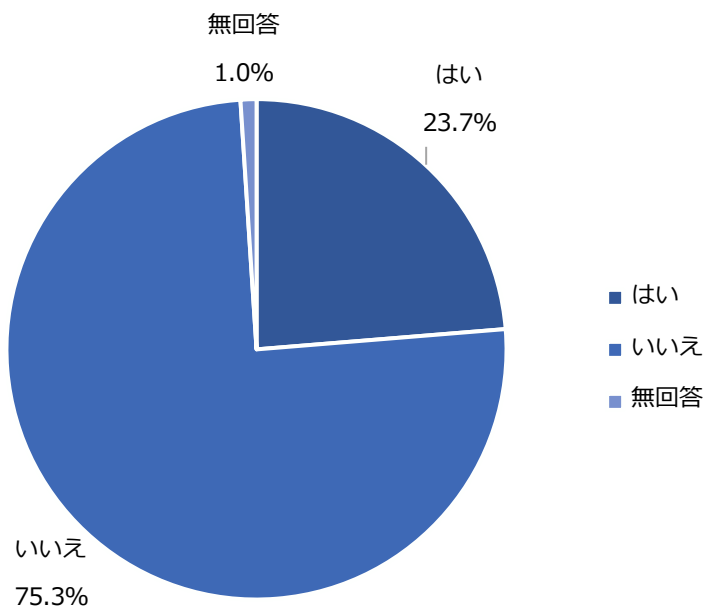




問6 本日の登山、観光では宿泊をされますか

宿泊するか	人数
はい	23
いいえ	73
無回答	1
合計	97

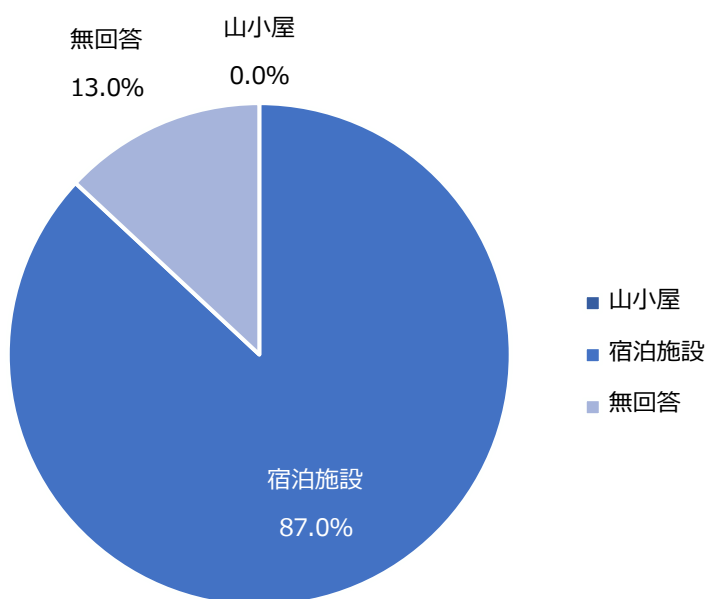
(n=97)



問6 - 1 宿泊する施設の種別

施設	人数
山小屋	0
宿泊施設	20
無回答	3
合計	23

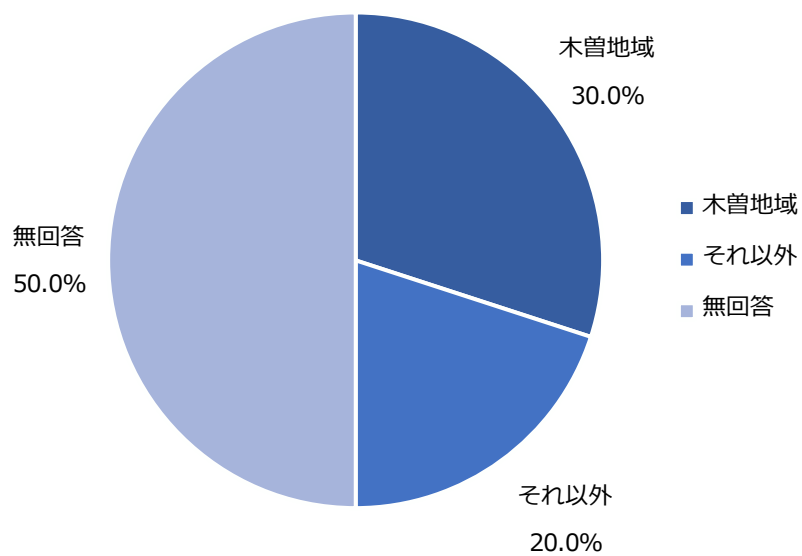
(n=23)



### 問6-1-2 宿泊施設の場所

宿泊施設場所	人数
木曽地域	6
それ以外	4
無回答	10
合計	20

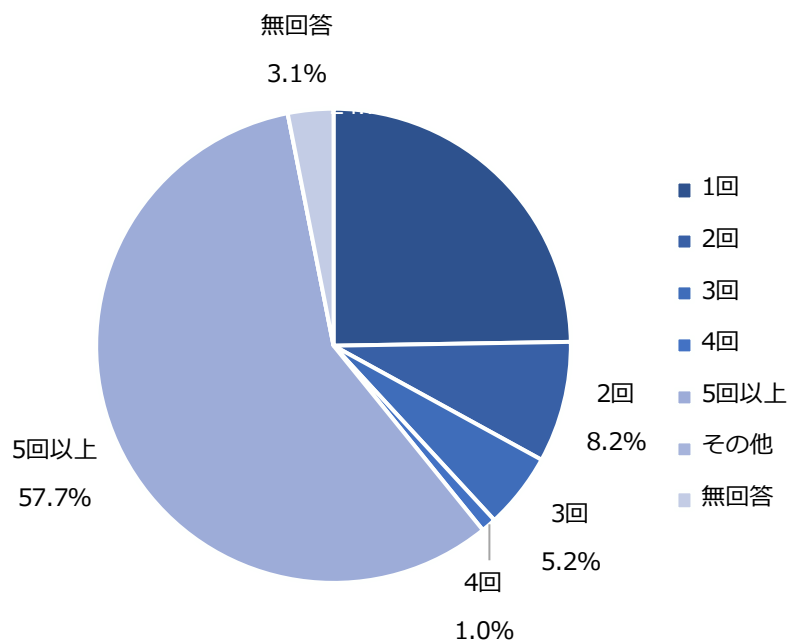
(n=20)



問7-1 御嶽山の訪問は何回目ですか

来訪回数	人数
1回	24
2回	8
3回	5
4回	1
5回以上	56
その他	0
無回答	3
合計	97

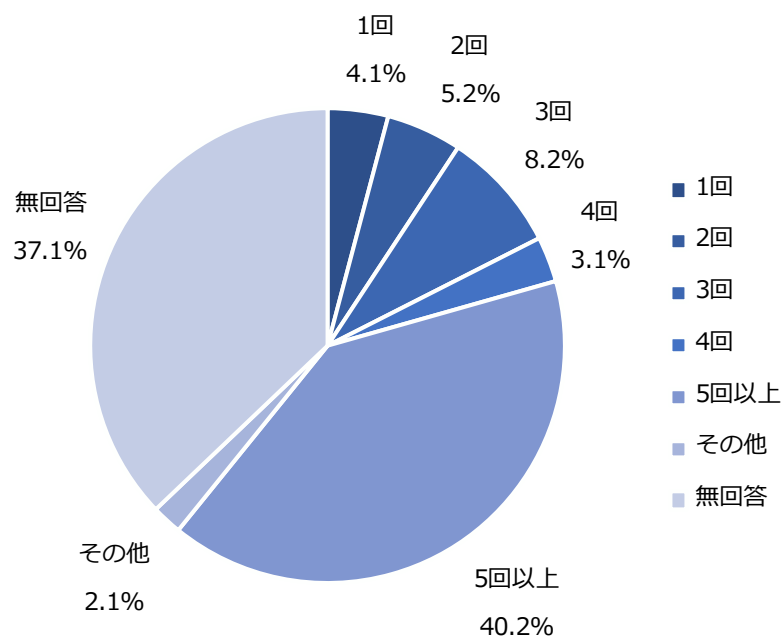
(n=97)






問7-2 木曽地域の訪問は何回目ですか

来訪回数	人数
1回	4
2回	5
3回	8
4回	3
5回以上	39
その他	2
無回答	36
合計	97

(n=97)



御嶽山ビジターセンター候補地比較表

エリア	山エリア			里エリア						
	1 田の原 	2 御岳ロープウェイ山麓駅 	3 やまゆり荘 	4 道の駅「木曽福島」 	5 道の駅「三岳」 	6 道の駅「日義木曾駒高原」 	7 御嶽山史料館 	8 太陽の丘公園 	9 旧三岳中学校 	10 木曾馬の里周辺 
施設	王滝村	木曾町(三岳)	木曾町(開田)	木曾町(福島)	木曾町(三岳)	木曾町(日義)	王滝村	木曾町(三岳)	木曾町(三岳)	木曾馬の里(開田)
アクセス	国道19号からの距離	約25km <small>(11月中旬～5月中旬閉鎖)</small>	約25km	道沿い	約3km	道沿い	約20km	約9km	約8km	約18km
	路線バス	「御岳田の原」バス停から徒歩1分※1	「御岳ロープウェイ」バス停から徒歩1分	「木曾市場」バス停から徒歩1分	「みたけ道の駅」バス停から徒歩1分	「元原(南)」バス停から徒歩4分	「二合目」バス停から徒歩4分※1	「黒沢里宮」バス停から徒歩1分	「交流センタ-」バス停から徒歩5分	「木曾馬の里入口」バス停から徒歩5分
1日の本数※2	- ※1	上下4本	上下3本	下り9本 上り6本	下り16本 上り15本	下り1本 巡回(北)5本 巡回(南)6本	- ※1	下り11本 上り13本	下り21本 上り22本	下り11本 上り10本
接続道路交通量(台/日) ※3	-	-	-	国道19号 11,821	国道20号 3,611	国道19号 15,673	国道256号 (1,728※4)	国道20号 1,657	国道20号 1,657	国道361号 3,268
御嶽山視認性	○	○	○	△	x	x	x	○	△	○
山頂からの直線距離	約3km	約5km	約8km	約20km	-	-	-	約13km	約14km	約15km
訪問者	登山者	○	○	△	△	△	x	x	x	x
	観光客	△	△	○	○	○	○	○	△	○
	地域住民	x	x	x	△	x	x	△	○	x
	学習者	△	△	x	○	○	△	○	○	○
場所の確保	○	○	○	x	△	△	○	○	○	△

※1 バスの運行休止中(令和2年1月現在)

※2 駅を經由(発着)するバスの最大本数(巡回除く)。平日土日祝日、シーズン等により本数減(令和2年1月現在)

※3 平成27年度全国道路・街路交通情勢調査(長野県建設部)

※4 国道256号から国道486号に分岐する前の数値。候補地は分岐後の国道256号に接続している